

MTV2200 SX Series

ユーザーズマニュアル

V1.0J

MTV2200 SX Series

ユーザーズマニュアル

Version 1.0J

August 12, 2002

Copyright © 2002 Canopus Co., Ltd.

All rights reserved.

canopus

ご使用前に

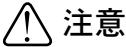
■絵表示について

本製品を安全に正しくお使いいただくために、以下の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

人が死亡または重傷を負う恐れのある内容を示しています。



注意

けがをしたり財産に損害を受ける恐れのある内容を示しています。

■絵表示の意味



この記号はしてはいけないことを表しています。



この記号はしなければならぬことを表しています。



この記号は気をつける必要があることを表しています。

■ご購入製品を使用される際の注意事項

ここでは、ご購入製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。



警告



●健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあられる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。



●製品のご利用についての注意事項

医療機器や人命に関わるシステムでは、絶対にご利用にならないでください。製品の性質上、これらのシステムへの導入は適しません。



●製品の取り付けおよび取り外しに関する注意事項

製品の取り付けおよび取り外しを行う場合必ずパソコン本体および周辺機器の電源を切り、さらに電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行ってください。

パソコン本体および周辺機器の電源を入れたまま製品を取り付けたり取り外したりした場合、製品やパソコン本体、周辺機器および周辺機器に接続されている機器の一部が破壊される恐れがあります。また、パソコン本体および周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜かずにパソコン本体や周辺機器の筐体(電源ユニットなど)、機器の金属部分に触れた場合には感電する恐れがあります。



●静電気に関する注意事項

製品に静電気が流れると製品上の部品が破壊される恐れがあります。各コネクタや部品面には直接手を触れないでください。

静電気は衣服や人体からも発生します。製品に触れる前に、一旦接地された金属製のものに触れてください(体内の静電気を放電することになります)。



注意



●消費電流に関する注意事項

複数の拡張ボードをパソコンに取り付けるときは、ご購入製品を含めたすべての製品の消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えていないことを必ず確認してください。全ボードの消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えたりするなどの動作条件を満たさない環境で使用し続けると、システムが正常に動作しない場合やシステムに負荷がかかり、パソコンが故障する原因となる恐れがあります。

消費電流のわからない製品については、その製品の取扱説明書をご覧ください。メーカーに直接お問い合わせいただいでお確かめください。



●他社製品と併用されるときの注意事項

他社製品と併用されるとご購入製品が正常に動作しないことがあり、そのためにシステムが本来の目的を達成することができないこともあります。あらかじめ、製品単体の環境でご購入製品が正常に動作することをご確認ください。また、他社製品との併用によってご購入製品が正常に動作しないのであれば、その他社製品とご購入製品との併用はお止めください。



●その他の注意事項

製品は指定された位置に指示通り取り付けてください。指示通りに取り付けられていない場合、製品の金属部分とパソコンの金属部分が接触してショートするなどの要因で、製品やパソコン本体・周辺機器が破壊される恐れがあります。

製品を取り扱うときは手など皮膚を傷つけないよう十分にご注意ください。ハードウェアの仕様上、製品のパネル、コネクタ、エッジ、裏面は金属のピンが、突出していることがあります。製品を取り付けたり取り外したりするときは、製品全体を軽く包み込むようにお持ちください。

動作中の製品は熱により非常に熱くなります。長時間使用した製品に手を触れる際には、十分にご注意ください。



ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの事がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があつたとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスクアセンブリを禁じます。
- (7) カノープス、CANOPUS/カノープスおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
- (8) Microsoft、Windowsは米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。
- (9) iEPGおよびiEPGロゴは、ソニー株式会社の商標です。



表記について

■ 本書はMTV2200 SX/MTV2200 SX Lightアプリケーションの操作方法について説明しています。アプリケーション『MEDIACRUISE』の操作方法については、インストール後に作成されるオンラインマニュアルも、併せてご参照ください。

『DVD-Movie Album for Canopus』の操作方法については、別冊のマニュアルをご参照ください(MTV2200 SX Lightには同梱されていません)。

また、MTV2200 SX/MTV2200 SX Lightのセットアップ手順とソフトウェアのインストール方法は、別冊のインストールマニュアルをご参照ください。

■ 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイル・オンラインマニュアルも必ずお読みください。

■ 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。

■ 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書れています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。

■ 本書ではMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemおよびMicrosoft® Windows® 2000 operating system、Microsoft® Windows® XPをWindows Me、Windows 2000、Windows XPと表記します。

■ 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。画面写真は開発中のものです。

■ 本書はMTV2200 SX、MTV2200 SX Lightとの共通マニュアルです。MTV2200 SX、MTV2200 SX Lightに共通の内容については、MTV2200 SX Seriesと表記しています。

ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、カノープス株式会社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

カノープス株式会社

〒651-2241

神戸市西区室谷1-2-2

テクニカルサポート

TEL. 078-992-6830

祝祭日および当社指定休日を除く月～金

10:00～12:00、13:00～17:00

目次

第1章

MEDIACRUISEの操作

1

1	MEDIACRUISEについて	2
	操作の概要	2
	MEDIACRUISEの機能	3
	■VIDEO機能(VIDEOモード)	3
	■AUDIO機能(AUDIOモード)	3
	■DISC再生機能(DISCモード)	4
	TV Recording Managerとの連携	5
	MEDIACRUISEを起動する	5
	メインコントローラの各部の名称と機能	6
2	VIDEOモードでの操作方法について	9
	VIDEOモードにする	9
	VIDEOモードでの各部の名称と機能	10
	■MTVタブのメニュー	10
	■MTVモードでのメインコントローラの機能	12
	■MTVモードで使用するタブのメニューについて	13
	■VIDEO PLAYERタブのメニュー	19
	■VIDEO PLAYERモードでのメインコントローラの機能	21
	■VIDEO RECORDERタブのメニュー	21
	チャンネルを設定する	22
	テレビを見る	26
	マルチチャンネル機能を使用する	27
	外部ビデオ機器の映像を見る	29
	テレビや外部ビデオ機器の映像を録画する	30
	録画ビデオを見る	33
	プリセットチャンネルや放送局名を設定する	34
	タイムシフト機能を使用する	36
	追っかけ再生機能を使用する	40
	静止画キャプチャする	41
	■静止画キャプチャウィンドウについて	42

1	TV Recording Manager について.....	44
	マウスの操作とメニュー	44
	■マウスを右/左クリックしたときの共通メニュー.....	44
	■マウスを右クリックしたときのメニュー	52
	■マウスを左クリックしたときのメニュー	52
	予約録画する-その1-	54
	予約録画する-その2-	58
2	CiRAgentでのリモート録画予約	62

1	起動と各部の機能.....	64
	DV-MPEG File Converterの機能.....	64
	起動方法.....	64
	各部の機能.....	65
2	ファイルの変換.....	67
	ファイル変換の手順.....	67

1	MPEG Hardware Exporter について	76
	DVStorm-RTとの連携	76
	MPEG Hardware Exporter のアンインストール	76
	■MTV2200 SXとDVStorm-RTの併用時の制限事項	77
2	MPEGファイルへの変換.....	78
	StormEditでの変換-タイムライン全体-	78
	StormEditでの変換-タイムラインの一部-	85
	Adobe Premiere 6.0での変換.....	87
	■Premiere 6.0でのMPEGファイル出力時のご注意について	89

MPEG2ファイル出力のビットレートについて	90
■参考事例	90

第5章 MTVファイルユーティリティー 91

1 MTVファイルユーティリティーについて	92
起動方法	92

APPENDIX 93

1 詳細設定について	94
MPEGパラメータの設定	94
2 各設定項目について	97
■ビデオタブ	98
■オーディオタブ	105
3 MTV2200 SXの高画質へのこだわり	108
Triple 3D Video processor 搭載	108
4 ハードウェア仕様	110
MTV2200 SX Seriesハードウェア仕様	110
■MTV2200 SXボード	110
■MTV2200 SXテレビチューナーユニット	112
■エラーコード一覧表	113

アイコンについて

各ページの左上、右上にあるアイコンは『MTV2200 SX』もしくは、『MTV2200 SX Light』を表しています。[SX]アイコンは『MTV2200 SX』を、[Light]アイコンは『MTV2200 SX Light』を表し、各々の製品に関連する内容であることを表しています。お買い求めいただいた製品にあわせてご覧ください。

※ MTV2200 SX Lightにはテレビチューナー機能はありません。



第 1 章

MEDIACRUISE の操作

この章では、アプリケーション『MEDIACRUISE』の操作方法について説明します。

1. MEDIACRUISE について 2 ページ
2. VIDEO モードでの操作方法について 9 ページ

■コピーガード付き映像について

本製品は、コピーガード信号付き映像のキャプチャを行うことはできません。



Light

1. MEDIACRUISE について

アプリケーション『MEDIACRUISE』の概要について説明します。

操作の概要

MEDIACRUISE および TV Recording Manager、DVD-Movie Album for Canopus を使用して、MTV Series の各種の機能を使用することができます（バンドルソフトウェアは、お使いの機種により異なります）。

MTV2200 SX Series で操作可能な内容、および操作方法の参照ページについては、次表をご覧ください。

MTV2200 SX を使用してできること	参照ページ
自動でテレビ放送の電波を受信し、登録する。	22
テレビを見る。	26
ビデオを見る。	29
テレビ放送やビデオの映像を録画する。	30
録画した映像を見る。	33
テレビ放送のチャンネルを自分の好きなようにカスタマイズする。	34
テレビを見るのを一時中断して、他の用事を処理し、用事が終わってから、中断した部分から続きを見る。	36
テレビ放送やビデオ映像の録画中に、録画した内容を再生する。	40
テレビ放送やビデオ映像の気に入った映像を静止画として保存する。	41
テレビ放送を予約録画する。	54

MTV2200 SX Light を使用してできること	参照ページ
ビデオを見る。	29
ビデオの映像を録画する。	30
録画した映像を見る。	33
ビデオ映像の録画中に、録画した内容を再生する。	40
ビデオ映像の気に入った映像を静止画として保存する。	41



本製品はコピープロテクトに対応しています。外部ビデオ入力時に、MTV2200 SX Series がコピープロテクトと認識した場合は、エラー（コード：53）が発生することがあります。



MEDIACRUISEの機能

MEDIACRUISEには、大きく分けて「VIDEOモード」、「AUDIOモード」、「DISCモード」の3つのモードがあり、これらを切り替えることで、さまざまなメディアの録画・録音・再生ができるようになっています。各機能の概要は以下のとおりです。

■ VIDEO機能 (VIDEOモード)

TV受信・録画機能 (MTVモード)

MTV2200 SX Seriesをコントロールして、TV放送を受信し、パソコンの画面にオーバーレイ表示します。

TVやビデオ信号を、MPEG1およびMPEG2形式で録画します。

録画と再生を同時に行うことにより、タイムシフトや追っかけ再生が可能です。

AVIキャプチャ機能 (Video Recorderモード)

当社SPECTRAシリーズのビデオキャプチャオプションVideo Port 600/600A、SSH Type-Cがインストールされている場合、それをコントロールし、ビデオ信号をキャプチャします。

MPEGビデオファイル再生機能 (Video Playerモードで、MPEGファイルを開いた場合)

MPEG1およびMPEG2ファイルを再生します。

ソフトウェアMPEGデコーダを用いて再生します。60Hzプログレッシブ化処理により、滑らかに高品位な映像を表示することができます (60Hzプログレッシブ化は、グラフィックスボードの機能に依存します)。

Direct Show再生機能 (Video Playerモードで、AVIファイルを開いた場合)

Direct Show機能を利用し、各種ビデオファイル (AVIファイル、Windows Mediaファイル等) を再生します。

■ AUDIO機能 (AUDIOモード)

オーディオ録音機能 (Audio Recorderモード)

Windows準拠のサウンドハードウェア (例: 当社製MD-Port Series) を利用して、オーディオ信号を録音します。MD-Portをご使用の場合は、オーディオデータのフォーマットコンバート機能も利用できます。

オーディオファイル再生機能 (Audio Playerモード)

Windows準拠のサウンドハードウェア (例: 当社製MD-Port Series) を利用して、WAVE/MIDI/MP3などのオーディオ信号を再生します。



■ DISC再生機能(DISCモード)

第 1 章

オーディオCD 再生機能(Audio CDモード)

オーディオCD を再生します(オーディオCD 再生機能を持ったCD-ROM ドライブが必要です)。

Video CD 再生機能(Video CDモード)

Video CDを再生してパソコンのモニタ画面に表示します(Video CDの読み取り機能を持った CD-ROMドライブが必要です)。

DVD 再生機能(DVDモード)

DVDを再生してパソコンのモニタ画面に表示します(DVDの読み取り機能を持ったDVD-ROM/RW/RAM ドライブが必要です)。

1

MEDIA CRUISE リンク



AVIキャプチャ機能、Direct Show再生機能、AUDIO機能、DISC再生機能については、MEDIA CRUISEのヘルプでご確認ください。
MD-Portをご利用の場合のAUDIO機能については、MD-Portのインストールディレクトリ内の[mdport_manual.pdf]ファイルをご参照ください。
本マニュアルでは、TV 受信・録画機能と、MPEG ビデオファイル再生機能について説明します。

TV Recording Manager との連携

TV Recording Manager は、常駐型のソフトウェアでMEDIACRUISEから呼び出されてTVチャンネルの設定などを行います。また、単独でTVのモニターや予約録画の設定、予約録画の実行などを行います。



TV Recording Managerの詳細については、『TV Recording Managerについて』44ページをご覧ください。

MEDIACRUISE を起動する

MTV2200 SX Seriesのドライバおよびアプリケーションのインストール完了後、MEDIACRUISEを起動します。

1

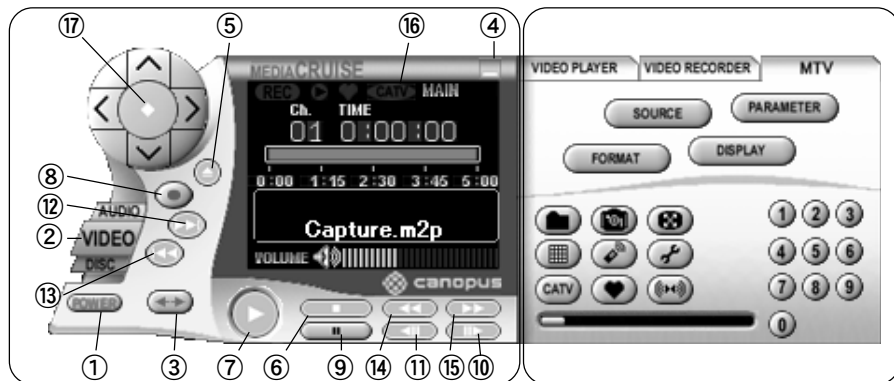
[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[Canopus MEDIACRUISE]と進んで、『MEDIACRUISE』を選択します。

→ MEDIACRUISE が起動します。

※ Windows Me/Windows 2000環境の場合、[すべてのプログラム]が[プログラム]と表示されます。

メインコントローラの各部の名称と機能

MEDIACRUISEのインターフェイスは、メインコントローラとサブコントローラに分かれています。メインコントローラには、MEDIACRUISEの基本的な機能をコントロールするためのボタンがあります。ここでは、メインコントローラの各部分の名称と機能について説明します。



メインコントローラ

サブコントローラ

- ① POWERボタン
アプリケーションを終了します。
- ② モード切り替えボタン
MEDIACRUISEのモードを切り替えます。
MEDIACRUISEには、DISC/AUDIO/VIDEOの3つのモードがあり、それぞれのモードによって機能が異なります。
- ③ サブコントローラ表示/非表示ボタン
サブコントローラの表示/非表示を切り替えます。
- ④ 最小化ボタン
MEDIACRUISEを最小化します。
- ⑤ イジェクトボタン
ディスクの挿入/取り出しを行います。
- ⑥ 停止ボタン
録画・再生を停止します。
- ⑦ 再生ボタン
再生を開始します。
- ⑧ レコードボタン
録音・録画を開始します。レコードボタンの後に再生ボタンを押すと追いつけ再生を開始します。
- ⑨ ポーズボタン
再生を一時停止します。再生を行っていない状態でこのボタンを押すと、タイムシフトを開始し、再生ボタンを押した時点でタイムシフト機能を使用した再生が始まり、オーバーレイに画面が表示されます。
- ⑩ ステップ再生ボタン
MTV2200 SX Series使用時は機能しません。



⑪ ステップ(逆)再生ボタン

MTV2200 SX Series使用時は機能しません。

⑫ 次ボタン

次のチャプター/トラック/ファイルに移動します。

⑬ 前ボタン

一つ前のチャプター/トラック/ファイルに移動します。

⑭ 早戻しボタン

早戻し(再生)を行います。

⑮ 早送りボタン

早送り(再生)を行います。

⑯ ディスプレイ

再生時間、タイトルなどの情報や、設定の変更を行う際の項目が表示されるマルチディスプレイです。再生画面を表示させることもできます。モードによって表示内容が異なります。

⑰ ナビゲーションボタン

MTVモードでは、TVチャンネルの切り替えや、ビデオソースの切り替えに使用します。



MEDIA CRUISE上でマウスの右ボタンをクリックさせたときに表示されるメニューについて説明します。



ビデオプレイヤーモード

MEDIA CRUISEがVIDEO PLAYERモードになります。

ビデオレコーダーモード

MEDIA CRUISEがVIDEO RECORDERモードになります。

MTVモード

MEDIA CRUISEがMTVモードになります。

映像と結合する

映像をコントロールのディスプレイ部に表示します。ファイル再生中の場合、リセットされて最初から再生が開始されます。

映像と分離する

映像を別ウィンドウで表示します。ファイル再生中の場合、リセットされて最初から再生が開始されます。

常に手前に表示

複数のアプリケーションを起動している場合でも、MEDIA CRUISEが他のアプリケーションの前に表示されます。

スキム

MEDIA CRUISE インターフェイスの表示状態を変更できます。

プラグイン

MEDIA CRUISE のプラグインを設定できます。

トピックの検索

ヘルプを表示します。

Web インフォメーション

カノーブスのホームページを開きます。インターネットに接続可能な環境が必要です。

バージョン情報

MEDIA CRUISE のバージョン情報を表示します。

ディスプレイに表示されるマークについて説明します。

- ① 録画時に点灯します。
- ② タイムシフト時に点灯します。
- ③ プリセットチャンネル時に点灯します。ロックチャンネル時には、カギの形をしたアイコンが表示されます。
- ④ CATV 選択時に点灯します。
- ⑤ 音声の出力形式を表示します。
- ⑥ 音量を調整できます。



2. VIDEOモードでの操作方法について

VIDEOモードでの操作方法について説明します。

VIDEOモードにする

MEDIACRUISEをVIDEOモードにする手順について説明します。VIDEOモードは、MTVモード、VIDEO PLAYERモード、VIDEO RECORDERモードに分かれており、映像に関連する、さまざまな用途に対応しています。

1

メインコントローラのVIDEOボタンをクリックしてください。

→ MEDIACRUISEがVIDEOモードになります。



VIDEO ボタン

2

使用するモードのタブをクリックします。

→ MTVタブをクリックしたときは、MTVモードになります。

VIDEO PLAYERタブをクリックしたときは、VIDEO PLAYERモードになります。

VIDEO RECORDERタブをクリックしたときは、VIDEO RECORDERモードになります。

VIDEO PLAYERタブ

VIDEO RECORDERタブ

MTVタブ

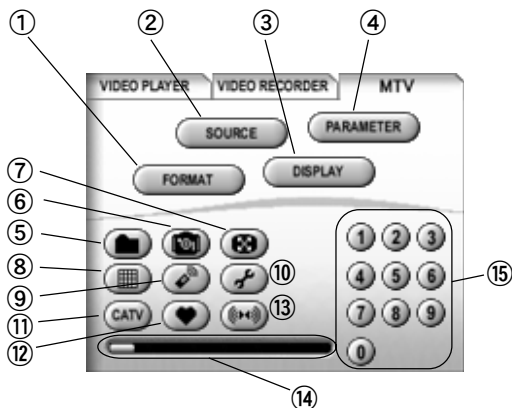


VIDEOモードでの各部の名称と機能

MEDIA CRUISEをVIDEOモードにしたときの、サブコントローラに表示されるボタン類の名称と機能について説明します。

■ MTVタブのメニュー

MTVタブをクリックするとMTVモードになります。MTVモードに変更すると、テレビ受信用のウィンドウが開き、テレビ放送がパソコンのモニタ上に自動的に表示されます。MTVモードのサブコントローラには、テレビ放送モニタ時の設定や、ファイルの設定などを行うボタンが用意されています。



① ビデオフォーマット設定ボタン
録画時のビデオフォーマットを設定するウィンドウを開きます。

② ビデオソース設定ボタン
ビデオソースと入力映像の画質調整を設定するウィンドウを開きます。

③ オーバーレイ表示設定ボタン
オーバーレイ画像を調整するウィンドウを開きます。

④ パラメータボタン
各種パラメータを設定するウィンドウを開きます。

⑤ ファイルボタン
録画するファイルを設定するウィンドウを開きます。

⑥ 静止画キャプチャボタン
表示されている画像をキャプチャして静止画として保存します。

⑦ サイズボタン
表示サイズの指定や、縦横比の固定、フルスクリーン表示などの指定を行います。ディスプレイにメニューが表示されますので、設定したい項目を選択してください。



⑧ マルチチャンネルボタン

TVチャンネルをマルチチャンネル形式(最大16チャンネル分)で表示します。プリセットモード時は、プリセットに設定されているチャンネルのみ表示します。通常モード時は、ロックチャンネルのみ表示します。

Reference マルチチャンネル形式については、『マルチチャンネル機能を使用する』27ページをご覧ください。

⑨ チャンネル設定ボタン

チャンネル設定ウィンドウを開きます。

⑩ オプション設定ボタン

再生時のパラメータを設定するウィンドウを開きます。

⑪ CATVボタン

CATV受信, TV受信を切り替えます。

⑫ プリセットボタン

プリセット、ロックチャンネル、すべてのチャンネルの順で切り替えを行います。

⑬ オーディオ選択ボタン

音声の出力形式を変更します。クリックするたびに、MAIN→SUB→MONO→MAIN+SUB→MAINの順に出力形式が切り替わります(CATVおよびTV選択時のみ有効)。

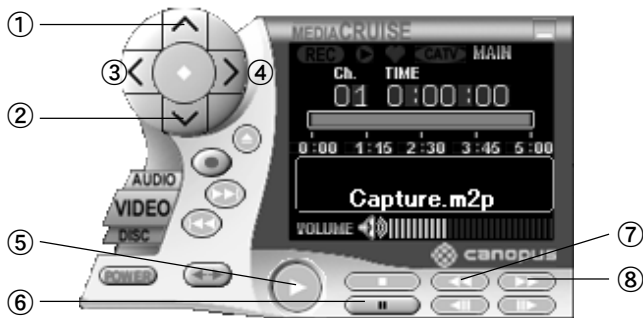
⑭ スライダ

タイムシフト機能使用時、および追っかけ再生時に使用できます。スライダを移動すると時間を変更することができます。

⑮ テンキー

テンキーからチャンネル番号を入力して、チャンネルを変更することができます。

■ MTVモードでのメインコントローラの機能



- ① ナビゲーションボタン - ハキー
TVの受信チャンネル番号を1つ大きくします。

プリセット

プリセットチャンネルの中で切り替えます。

ロックチャンネル

ロックチャンネルの中で切り替えます。

すべてのチャンネル

すべてのチャンネルを切り替えます。

- ② ナビゲーションボタン - Vキー
TVの受信チャンネル番号を1つ小さくします。

- ③ ナビゲーションボタン - <キー
映像ソースを、チューナー → S-Video → コンポジットビデオ → チューナー の順に切り替えます。

- ④ ナビゲーションボタン - >キー
映像ソースを、チューナー → コンポジットビデオ → S-Video → チューナー の順に切り替えます。

- ⑤ 再生ボタン

ポーズボタンを押してタイムシフトを開始した後に押すと、表示映像の動きを再開します。それ以降は、タイムシフトしながらの再生になります。

録画中に再生ボタンを押すと、追っかけ再生を開始します。

- ⑥ ポーズボタン

TVや外部ビデオの視聴中に押すと、表示映像が静止し、タイムシフトを開始します。

タイムシフト、追っかけ再生時に押すと、ポーズ状態になり、映像表示を静止させます(録画設定時には録画は続行)。

- ⑦ 早戻しボタン

タイムシフト、追っかけ再生時に使用します。押すごとに、1秒分ずつ前に戻ります。押し続けると、早戻しを行います。ポーズ状態にしてから使用すると便利です。

また、このボタン上で右クリックすると、10～120秒のメニューが出ます。メニューから数値を選択すると、その時間だけ前にスキップします。

- ⑧ 早送りボタン

タイムシフト、追っかけ再生時に使用します。押すごとに、1秒分ずつ先に進みます。押し続けると、早送りをを行います。ポーズ状態にしてから使用すると便利です。

また、このボタン上で右クリックすると、10～120秒のメニューが出ます。メニューから数値を選択すると、その時間だけ先にスキップします。



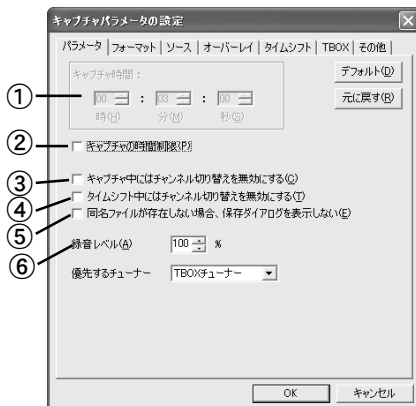
ステップ再生ボタンは、このモードでは動作しません。

■ MTVモードで使用するタブのメニューについて

MTVモード時に設定可能な、各種のタブのメニューについて説明します。各タブの設定後、[OK]をクリックすると設定が有効になります。また、[デフォルト]をクリックすると初期設定に、[元に戻す]をクリックすると直前に設定していた内容に戻ります。フォーマットタブにある[拡張子]をクリックすると、デフォルトで付加される拡張子を設定できます(この設定は、予約設定時にも有効になります)。

パラメータタブ

キャプチャ時間等を設定するタブです。設定項目は次のとおりです。



① キャプチャ時間

キャプチャを実行する時間を設定します。②をチェックした場合のみ、設定が可能になります。

② キャプチャの時間制限

キャプチャ時間を制限する場合、チェックします。

③ チャンネル切り替え制限

(キャプチャ中)

キャプチャ中にチャンネルを切り替えることを制限します。

④ チャンネル切り替え制限

(タイムシフト中)

タイムシフト中にチャンネルを切り替えることを制限します。

⑤ 同名ファイルの処理

チェックをつけると同名ファイルが存在しない場合は、ファイル名の確認を行うダイアログを表示しません。同名ファイルが存在する場合、およびタイムシフトによる保存の場合、この設定に関わらず、確認のダイアログが表示されます。

⑥ 録音レベル

録音レベルを調整します。100%以外の設定では、すべての音声に対してレベル調整処理を行いますので、システムに対して負荷がかかります。そのため、お使いの環境によっては、キャプチャに失敗する場合があります。

フォーマットタブ

録画時のデータファイル形式を設定するタブです。設定項目は次のとおりです。

種類

種類 :

MPEG1(1)
 MPEG2(2)
 Video CD(3)

DVD-MovieAlbum インポート情報の出力(4)

MPEG1

ビデオをMPEG1形式でエンコードしたい場合に選択します。

MPEG2

ビデオをMPEG2形式でエンコードしたい場合に選択します。

VideoCD

ビデオCDを作成したい場合に選択します(MPEG1の中でも、特にビデオCDの規格に準拠した形式でエンコードします)。

DVD-MovieAlbum

DVD-MovieAlbumインポート情報を出力します。チェックをつけると、[画質]の[高画質]、[普通]の画像サイズが704×480になります。



DVD-Movie Album for Canopusをインストールしていない場合は、表示されません。

ストリーム

ストリーム :

オーディオ(A)
 ビデオ(V)

オーディオ+ビデオ(B)
 プログラムストリーム(P)

オーディオ

オーディオ信号だけをエンコードし、その結果のエレメンタリストリームをファイルに記録します。

ビデオ

ビデオ信号だけをエンコードし、その結果のエレメンタリストリームをファイルに記録します。

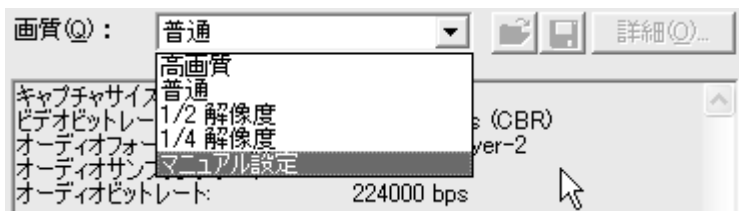
オーディオ+ビデオ

オーディオ信号とビデオ信号のそれぞれをエンコードし、その結果のエレメンタリストリームを同時に2つの別々のファイルに記録します。

プログラムストリーム

オーディオ信号とビデオ信号のそれぞれをエンコードし、その結果を多重化して1つのファイルに記録します。

画質



高画質

画像サイズ 720×480、ビットレート 8Mbps で録画します。

普通

画像サイズ 720×480、ビットレート 5Mbps で録画します。

1/2 解像度

画像サイズ 352×480、ビットレート 3Mbps で録画します。

1/4 解像度

画像サイズ 352×240、ビットレート 2Mbps で録画します。

マニュアル設定

画質の設定を手動で行います。「マニュアル設定」を選択した場合のみ、右側の[詳細]が選択できるようになります。[詳細]をクリックすると「マニュアル設定」画面が開きます。実際の設定は、「マニュアル設定」画面のビデオタブ、オーディオタブで行います。これらの設定を行うにはMPEGに関する知識が必要です。

通常は[高画質]、[普通]、[1/2解像度]、[1/4解像度]のいずれかを選択してください。

Reference

マニュアル設定の詳細については、『APPENDIX 詳細設定について』94ページをご覧ください。

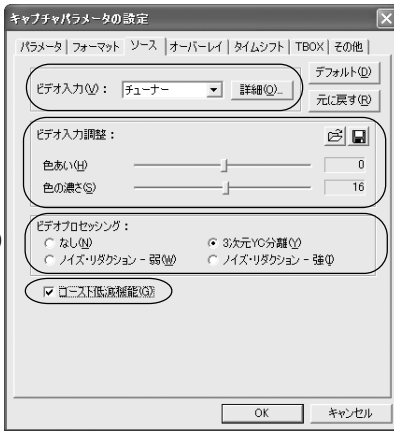


[拡張子]をクリックすると、デフォルトで付加される拡張子の指定を行うことができます。拡張子を変更する場合は、変更したい拡張子を指定し[OK]をクリックしてください。デフォルト値に戻す場合は、[デフォルト]をクリックします。この設定は予約設定時にも使用されます。



ソースタブ

録画ソースの選択と、表示画面を調整するタブです。設定項目は次のとおりです。



	YC 分離	ノイズフィルター
なし	2次元	無
3次元	3次元	無
ノイズ弱	2次元	弱
ノイズ強	2次元	強

・ビデオプロセッシングの設定

① ビデオ入力・[詳細] ボタン

録画ソースを設定します。録画ソースはコンポジット、S-VIDEO、チューナーから選択できます。[詳細] ボタンを押すことにより、表示に関する設定画面(表示オプション)を開きます。

③ ビデオプロセッシング

コンポジット信号の分離とノイズフィルターの動作を選択します。ノイズの多い画面では3次元を使用しても効果が薄いため、排他選択となっています。

② ビデオ入力調整

録画する映像を調整します。色あい、色の濃さの各スライダを左右に移動させて、適当な表示状態になるように調整します。明るさやコントラストなどはデジタルAGC機能により、常に最適値に保たれるため、設定はありません。表示画面の明るさは次ページのオーバーレイタブにて調整を行ってください。

④ ゴースト低減機能

チューナー使用時に画面にゴーストが目立つ場合にチェックします。この機能はチャンネル選択後1秒～1分で有効となります。コンポジット、S-VIDEO使用時には選択できません。

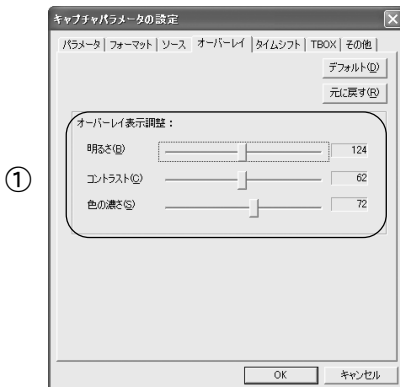


ここで設定した内容は、予約録画時にも反映されます。

色合い、色の濃さは、ディスプレイの状態によって見え方が異なります。ファイルとして保管する映像はできるだけ標準的な調整になっている方が望ましいため、特に必要のない場合は、デフォルトの設定で録画されることをお勧めします。

オーバーレイタブ

オーバーレイ(表示画面)を調整するタブです。この調整は、オーバーレイにのみ適用され、パソコンのモニタには影響ありません。設定項目は次のとおりです。

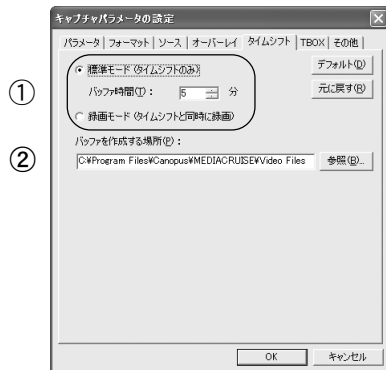


① オーバーレイ表示調整

オーバーレイの表示状態を調整します。明るさ、コントラスト、色の濃さの各スライダを左右に移動させて、適当な表示状態になるように調整します。この調整はファイルから再生される映像には影響を与えません。

タイムシフトタブ

タイムシフトの詳細内容を設定するタブです。設定項目は次のとおりです。



① 標準モード、録画モード

タイムシフトを標準モードで行うか、録画モードで行うかを選択します。標準モードで行う場合、バッファ時間も設定します。

② バッファを作成する場所

タイムシフト時の、バッファデータを記録するパス(場所)を設定します。



タイムシフトの設定の詳細内容については、『タイムシフト機能を使用する』36ページをご覧ください。

TBOX タブ

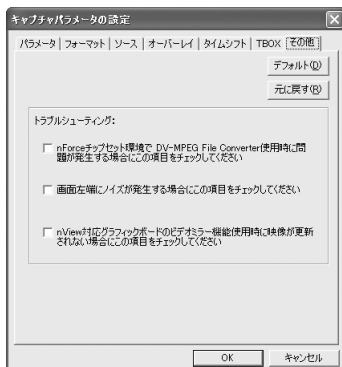
テレビチューナーユニット (TBOX) の設定を行います (テレビチューナーユニットが接続されている場合のみ、[TBOX] タブは表示されます)。このタブの設定を行う場合は、[ソース] タブの [ビデオ] 入力を『チューナー』に設定します。



- ① Volume
音量の調整を行います。
- ② Bass
低音の調整を行います。
- ③ Treble
高音の調整を行います。
- ④ L-R
音声の左右のバランスを調整します。
- ⑤ チューナー感度
テレビチューナーユニット (TBOX) のチューナーの受信感度を調整します。

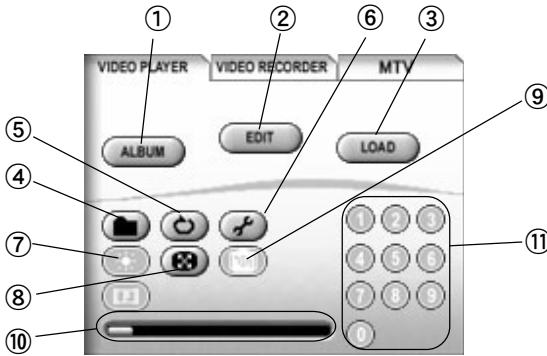
その他タブ

お使用の環境でキャプチャ時に問題が生じた場合、以下の設定をお試しいただくことにより症状が改善する場合があります。



■ VIDEO PLAYER タブのメニュー

VIDEO PLAYER タブをクリックするとVIDEO PLAYERモードになります。VIDEO PLAYERモードは、AVI やMPEG1、MPEG2などの様々なビデオファイルを再生するモードです。VIDEO PLAYERモードのサブコントローラには、ビデオファイルの再生を便利に行うことができる様々な機能が用意されています。



再生時に、早戻しおよび早送りボタン上で右クリックすると、一定時間をスキップさせるためのポップアップメニューが表示されます。

① ALBUM ボタン

アルバムモードに移行します。ディスプレイの、[ALBUM] ライトが点灯します。もう一度クリックすると、解除できます。

② EDIT ボタン

アルバム情報を編集するウィンドウを開きます。

③ LOAD ボタン

登録したアルバムを読み込みます。

④ ファイルボタン

再生したいファイルを選択するウィンドウを開きます。

⑤ リピートボタン

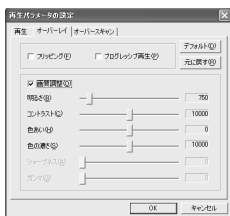
繰り返し再生を行います。通常再生時には、シングルリピートとリピート解除、アルバム再生時には、シングルリピートとアルバムリピート、リピート解除の順に切り替わります。

⑥ オプションボタン



再生タブ

[再生] タブでは、再生時の音声出力チャンネルの選択を行います。ニカ国語放送時の主音声、副音声を切り替えます。この機能は、ビデオフォーマットによっては使用できません(使用可能な場合のみ選択可能)。



オーバーレイタブ

[オーバーレイ]タブでは、オーバーレイ表示に関する設定を行います。画質調整を行う場合は、チェックボックスにチェックを付けてください。ただし、フリッピング、プログレッシブ再生および画質調整の設定は、お使いのグラフィックボードおよびドライバに依存しているため設定可能な項目が環境により異なります。

[フリッピング]

ティアリング(非同期書き換え時の、描画の追い越し)を防止する場合にチェックします。

[プログレッシブ再生]

偶数・奇数フィールドを個別に 1/60 秒間隔で更新し、フィールドを補間して表示を行います。非インターレス映像(例:MPEG1およびMPEG2のSIFサイズのもの)では機能しません。



オーバースキャンタブ

[オーバースキャン]タブでは、オーバーレイの表示領域の変更を行います。無効領域はカットされ、有効領域が拡大されることとなります。

⑦ アジャストボタン

明るさや色合いの設定モードに入ります。ディスプレイに調整可能な項目が表示されますので、調整したい項目を選択し、ナビゲーションボタンまたはカーソルキーの左右で調整を行ってください。なおこの機能はビデオフォーマットによっては使用できません。使用可能な場合のみ選択可能となります。

⑧ サイズボタン

表示サイズの指定や、縦横比の固定、フルスクリーン表示などの指定を行います。ディスプレイにメニューが表示されますので、設定したい項目を選択してください。

⑨ 静止画キャプチャボタン

表示されている画像をキャプチャして静止画として保存します。

⑩ スライダー

ビデオ再生中にスライダーを移動すると、任意の位置に移動することができます。

⑪ テンキー

アルバム再生時に、再生したい映像番号を直接入力できます。

■ VIDEO PLAYERモードでのメインコントローラの機能



① 再生ボタン

ファイルの再生を開始します。

② ポーズボタン

再生中に押すと、ポーズ状態になり、映像表示を静止させます。

③ 早戻しボタン

再生時に使用します。押すごとに、1秒分ずつ前に戻ります。押し続けると、早戻しを行います。ポーズ状態にしてから使用すると便利です。
また、このボタンの上で右クリックすると、10～120秒のメニューが出ます。メニューから数値を選択すると、その時間だけ前にスキップします。

④ 早送りボタン

再生時に使用します。押すごとに、1秒分ずつ先に進みます。押し続けると、早送りをを行います。ポーズ状態にしてから使用すると便利です。
また、このボタンの上で右クリックすると、10～120秒のメニューが出ます。メニューから数値を選択すると、その時間だけ先にスキップします。

⑤ 停止ボタン

ファイルの再生を停止します。



ステップ再生ボタンは、このモードでは動作しません。

■ VIDEO RECORDER タブのメニュー

VIDEO RECORDER タブをクリックするとVIDEO RECORDER モードになります。VIDEO RECORDER モードを使用する場合には、Video for Windows 規格に準拠したビデオキャプチャボードが必要です。VIDEO RECORDER タブについてはMEDIA CRUISE のヘルプをご参照ください。

チャンネルを設定する

MEDIACRUISEの初回起動時に地域別のプリセットを利用するか、オートスキャン機能を利用して放送があるチャンネルや放送局名などを設定します。



この設定は、初回起動時のみ必要です。

1

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[Canopus MEDIACRUISE]と進んで『MEDIACRUISE』を選択します。

→ MEDIACRUISE が起動します。

※ Windows Me/Windows 2000環境の場合、[すべてのプログラム]が[プログラム]と表示されます。

2

メインコントローラのVIDEOボタンをクリックしてください。

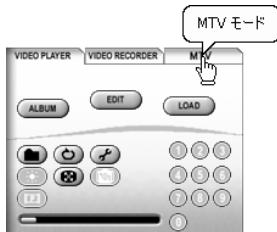
→ MEDIACRUISEがVIDEOモードになります。



3

MTVタブをクリックします。

→ MTVモードになります。



4

チューナー設定ボタンをクリックします。

→ TV Recording ManagerのTVタブが開きます。



5

[地域変更]をクリックします。
→「都道府県の選択」ウィンドウが表示されます。



6

プルダウンリストから本製品を使用している地域名を選択します。



7

都道府県名を選択し[次へ]をクリックします。



8

受信エリアを選択し[完了]をクリックします。

→ 地域設定が終了し、「受信エリアの選択」ウィンドウが閉じます。

もし、お住まいのエリア名が見つからない場合や、[受信エリア番組リスト]の内容が、実際に放送されているものと一部異なる場合は、できるだけ近い内容のエリアを選択してください。リストの内容は、後から修正できます。



2

放送局名を確認、および設定してください。

→ TV タブの右下にある一覧は、放送局名と受信チャンネル番号(No.)の対応表です。

※ 受信チャンネル番号は、放送局からの電波の周波数に直接対応したチャンネル番号のことで、新聞や雑誌のTV番組表に載っている番号です。1～12(VHF)と、13～62(UHF)があります。



受信したいチャンネル番号の欄に、放送局名が正しく記入されていることと、左端にロックマーク(●)が付いていることを確認してください。もし、その欄に放送局名やロックマーク(●)がない場合は、その欄をクリックしてみてください。放送が受信できていれば、オーバーレイウィンドウにそのチャンネルの映像が表示されます。正常に受信できていることが確認できた場合は、Lock(L)と書かれたチェックボックスをクリックしてロックマーク(●)を表示させ、放送局名欄をダブルクリックして表示されるダイアログで、放送局名を入力してください。



「チャンネルスキャン」をクリックすると、全てのチャンネルを順にスキャンし、放送電波があるチャンネルを自動的に見つけることもできます。受信できたチャンネルの欄には、ロックマーク(●)が付きます。



iEPGに対応させるため、放送局名は英数文字を含めて全角大文字にする必要があります。

プリセットを確認および設定してください。

→ TV タブの上側にある一覧は、プリセットチャンネルの対応表です。

選局が簡単に行えるよう、12 個のプリセットチャンネルに、それぞれ任意の受信チャンネルを割り当てることができます。



1～12のプリセットチャンネルのそれぞれにプルダウンメニューがあり、受信チャンネルのうち、ロックマーク(●)が付いているチャンネルが選択できます。

[OK] ボタンを押すと設定を完了し、ウィンドウが閉じます。

テレビを見る

MEDIA CRUISEの初回起動時にオートスキャン機能、または地域別プリセット機能を利用してチャンネル設定を行っている場合、MEDIA CRUISEを起動するとテレビを見ることができます。

1

MEDIA CRUISEを起動し、VIDEOボタン→MTVタブの順に選択します。

→ オーバーレイウィンドウにTV放送が表示されます。



手順の詳細については、『チャンネルを設定する』22ページの手順1～3をご覧ください。

2

ナビゲーションボタンの上下ボタンを使用して好みのチャンネルに合わせてください。オーバーレイウィンドウに選択した受信チャンネルの映像が表示されます。

→ サブコントローラ上のテンキーによるダイレクト入力、キーボードの上下カーソルキー移動、キーボードのテンキー(0～12の数字キー)で直接チャンネル番号をキー入力することでチャンネルを変更することもできます。



ナビゲーションボタン



ゴーストリデュース機能について

ゴーストリデュース機能は、ゴーストを低減するための機能で除去するものではありません。

ゴースト除去用の信号が正常に受信できないような地域では効果が無い場合があります。また10tap以上のゴーストに関しては原理的に軽減できません。最初にゴーストリデュース機能が動くまで1～2秒かかり、信号の遅延と減衰の解析を終えるまでには1分程度かかります。

チャンネルを切り替えるたびにこの動作を繰り返します。



チャンネル表示位置、表示形式の変更を使用するウィンドウについては、『チャンネル設定』表示オプションタブ50ページをご覧ください。



オーバーレイウィンドウの調整に使用するウィンドウについては、『オーバーレイタブ』17ページをご覧ください。

マルチチャンネル機能を使用する

MEDIACRUISEの初回起動時にオートスキャン機能、地域別プリセット機能を利用してチャンネル設定を行っている場合、マルチチャンネル機能を使用して、最大16チャンネル分の画面をオーバーレイウィンドウ上に一括表示することができます。また、一括表示されたチャンネルから、好きなチャンネルを表示することもできます。

1

MEDIACRUISEを起動し、VIDEOボタン→MTVタブの順に選択します。

→ オーバーレイウィンドウにTV放送が表示されます。

Reference 手順の詳細については、『チャンネルを設定する』22ページの手順1～3をご覧ください。

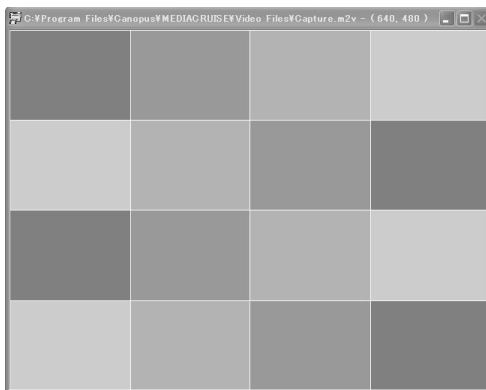
2

マルチチャンネルボタンをクリックします。

→ オーバーレイウィンドウに受信可能な放送が最大16チャンネル分表示されます(静止画状態)。



マルチチャンネルの表示内容は静止画状態です。表示内容は1～2秒の間隔でチャンネル順に更新されていきます。この状態では、音声は出力されません(音が出ません)。



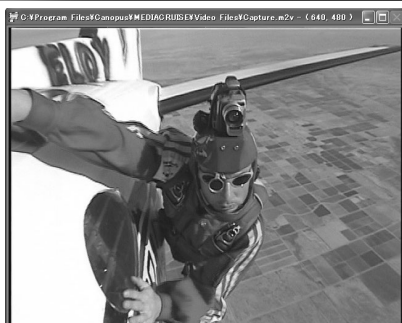
マルチチャンネルの見たいチャンネルをクリックすると、クリックしたチャンネルが動画状態になり、音声が出力されます。

→ 他のチャンネルの表示内容は更新されません。

クリックしたチャンネルが動画状態になります。



さらにクリックすると、チャンネルが選択され、通常の表示状態になります。



キーボードの「ESC」キーを押すと、マルチチャンネルがキャンセルできます。チャンネルを入力すると、マルチチャンネルを中止し、チャンネル切り替えになります。

外部ビデオ機器の映像を見る

ビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を見ることができます。

1

MEDIACRUISEを起動し、VIDEOボタン→MTVタブの順に選択します。



Reference

手順の詳細については、『チャンネルを設定する』22ページの手順1～3をご覧ください。

2

SOURCEボタンをクリックします。

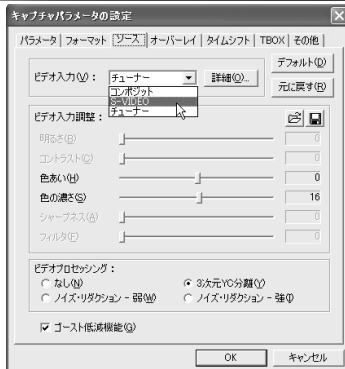
→「キャプチャパラメータの設定」ウィンドウのソースタブが開きます。



3

[ビデオ入力]のプルダウンリストから、ビデオ信号をコンポジットビデオ接続している場合はコンポジットを、Sビデオ接続している場合はS-VIDEOを選択します。

→ オーバーレイウィンドウにビデオの映像が表示されます。



ビデオ映像をより見やすくする機能として、ビデオ信号を調整したり、オーバーレイウィンドウに表示される画像を調整したりする機能があります。設定手順の詳細については、ヘルプで確認してください。



Reference

ビデオ信号の調整に使用するウィンドウについては、『ソースタブ』16ページをご覧ください。



Reference

オーバーレイウィンドウの調整に使用するウィンドウについては、『オーバーレイタブ』17ページをご覧ください。

テレビや外部ビデオ機器の映像を録画する

テレビ放送やビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を録画することができます。



Important

ノイズなど映像の状態によっては録画できないものがあります。

1

録画したいテレビまたはビデオ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、『テレビを見る』26ページをご覧ください。



ビデオ映像を表示する場合は、『外部ビデオ機器の映像を見る』29ページをご覧ください。

2

MPEGパラメータを設定します。



MPEGのパラメータ設定には、専門的な知識を必要とする設定も複数あります。最初は、初期設定のままでも録画を試み、問題が出た場合に、その部分を変更していくようにしてください。
設定内容は記憶されますので、同じパラメータで録画する場合には、次回から設定する必要はありません。



MPEGパラメータの設定については、『MTVモードで使用するタブのメニューについて』13ページをご覧ください。

3

ファイルボタンをクリックします。

→「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

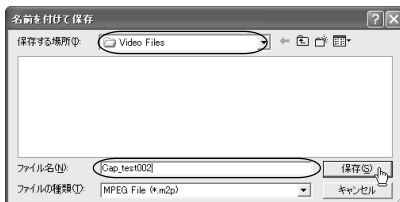


4

データの保存先を選択し、[ファイル名]にこれから録画するデータの名前を入力します。入力後、[保存]をクリックします。

※ キャプチャファイルの保存先を変更できます。

※ 入力したファイル名と同じファイル名が既に存在している場合は、キャプチャ終了時にキャプチャファイル名の入力ウィンドウが表示されます。



5

キャプチャパラメータ設定ボタンをクリックします。

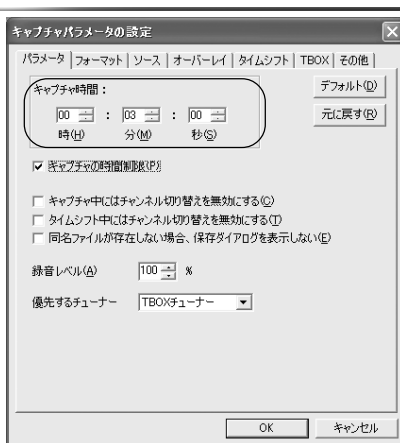
→「キャプチャパラメータの設定」ウィンドウのパラメータタブが表示されます。



6

[キャプチャの時間制限]をチェックし、キャプチャ時間を設定します。設定後、[OK]をクリックします。

※ キャプチャ時間に制限を設定しない場合は、チェックを付けなくてください(チェックを外すと[キャプチャ時間]はグレーアウトし、設定できなくなります)。



録音レベルを100%以外に設定した場合、すべての音声に対して調整処理を行うため動作に負荷がかかり、キャプチャに失敗する場合があります。

2

VIDEOモードでの操作方法について

レコードボタンをクリックします。

→ 録画を開始します。設定した時間が経過すると、録画を自動的に終了します。録画を中止したい場合は停止ボタンをクリックしてください。



OSがWindows 2000/Windows XPでNTFSの場合、ドライブの残り容量がなくなるまで録画を続けることができます。

OSがWindows Me、またはWindows 2000/Windows XPでFAT32の場合、ドライブの残り容量がなくなるまでファイルを自動的に4GBごと分割保存し、録画を続けることができます(ストリームのみ)。分割保存された場合、先頭以外のファイル名は自動的に割り振られます。分割されたファイルの中間ファイルから再生は行えませんが、再生時は先頭のファイルを指定してください。また、この分割されたファイルはMEDIACRUISEでのみ再生できます。分割されたファイルは、拡張子を変更してもMPEGファイルとして扱えません。

録画ビデオを見る

予約録画したファイルなどの再生の手順について説明します。

1

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[Canopus MEDIACRUISE]と進んで『MEDIACRUISE』を選択します。

→ MEDIACRUISE が起動します。

※ Windows Me/Windows 2000 環境の場合、[すべてのプログラム]が[プログラム]と表示されます。

2

メインコントローラのVIDEOボタンをクリックしてください。

→ MEDIACRUISE がVIDEOモードになります。



3

VIDEO PLAYERタブをクリックします。

→ VIDEO PLAYERモードになります。



4

ファイルボタンをクリックします。

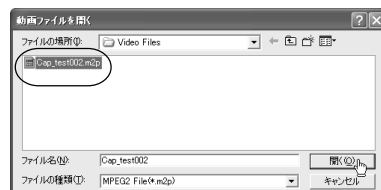
→ [動画ファイルを開く]ウィンドウが表示されます。



5

再生するファイルを選択し、[開く]をクリックしてください。

→ 再生が開始されます。



再生時に早送り/早戻しボタン上で右クリックすると、ポップアップメニューが表示され、一定時間スキップすることができます。

プリセットチャンネルや放送局名を設定する

12個のテンキーにお好みのチャンネルを割り当てると、テンキーを1回押すだけでチャンネルを切り替えることができます。

1

MEDIACRUISEを起動し、チャンネル設定のタブを開きます。



手順の詳細については、『チャンネルを設定する』22ページの手順1～4をご覧ください。

2

プリセット欄の各番号について、プルダウンリストから割り当てたいチャンネルを選択し、[OK]をクリックします。

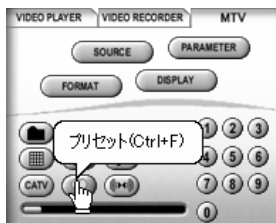
→ 設定したチャンネルが登録されます。



3

プリセットボタンをクリックします。

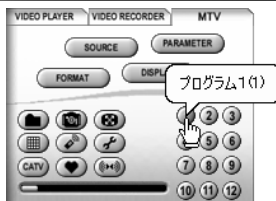
→ テンキーの表示形式が、①～⑫のボタンに変更されます。



4

テンキーから、お好きなチャンネルを選択してください。

→ 設定に従って、チャンネルが変わります。





プリセットチャンネルを選択している場合、メインコントロールのディスプレイにプリセットモードマークが表示されます。



パソコンのテンキーで入力する場合は、プリセットモード時とそれ以外では、入力の方法が異なります。

プリセットモード時

1～9チャンネル:そのまま入力してください。入力した番号にチャンネルが登録されていると、そのチャンネルに切り替わります。

10～12チャンネル:キーボードの「Ctrl」キーを押してから、0、1、2のいずれかを入力してください。

例:10と入力する場合
「Ctrl」+「0」を押す。

通常モード時

1桁だけを入力した場合は約2秒後にチャンネルが切り替わります。

最大62まで入力することができます。

タイムシフト機能を使用する

TVを受信していて、ちょっと席を離れる場合などは、戻ってきたときに続きの部分から
見ることができる、タイムシフト機能を使用すると便利です。ここでは、このタイムシ
フト機能について説明します。



ここで説明している手順で、タイムシフト機能がうまく使用できない場合、録
画データの設定を変更する必要があります。
『APPENDIX MPEGパラメータの設定』94ページの内容を参考にして、録画デー
タの設定を変更してください。

1

MEDIA CRUISEを起動し、VIDEOボタン→MTVタブの順に選択します。



手順の詳細については、『チャンネルを設定する』22ページの手順1～
3をご覧ください。

2

フォーマットボタンをクリック
します。

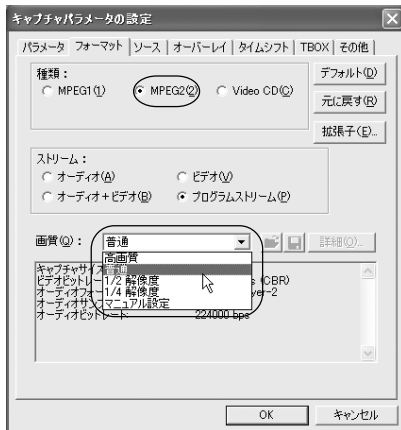
→ [キャプチャパラメータの設定]
ウィンドウのフォーマットタブ
が表示されます。



3

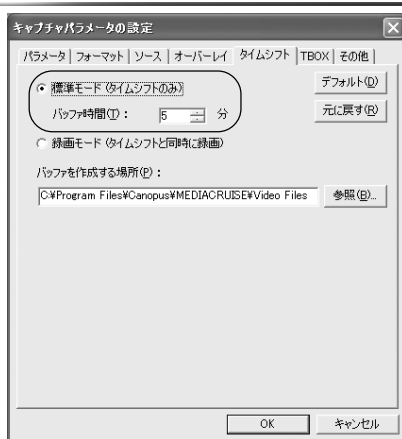
タイムシフト時の画質をプルダ
ウンリストから選択し、[タイム
シフトタブ]をクリックします。

→ タイムシフト時の画質が設定さ
れ、[キャプチャパラメータの設
定]ウィンドウのタイムシフト
タブが表示されます。



4

タイムシフトの録画形式を選択します。標準モードを選択した場合は、バッファ時間も設定します。

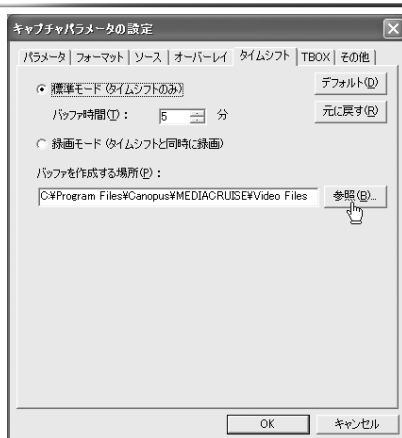


標準モードでは、一定時間分のバッファを用意し、その時間以上経過した映像は、順次消去されながら、現在の映像が新たに記録されてゆきます。記録を続けながら、設定した時間内の過去の映像を見ることができます。バッファの時間も設定します。

録画モードでは、タイムシフトを始めた時点から、ハードディスクへの録画が始まります。通常の録画と異なり、パソコン画面に表示される映像は、現在の映像ではなく、録画された映像の再生映像です。また、録画開始時には記録するファイル名を指定せず、あらかじめ設定されたバッファ用のファイルに記録されます。記録を終了した時点で、そのファイル名を変更して、保存しておくことができます。

5

バッファデータの保存場所を設定します。[参照]をクリックし、[フォルダの参照]ウィンドウから選択してください。キーボードから直接入力することもできます。



タイムシフト機能を使用したいテレビチャンネルをオーバーレイウィンドウに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、『テレビを見る』26ページをご覧ください。



ビデオ映像を表示する場合は、『外部ビデオ機器の映像を見る』29ページをご覧ください。

ポーズボタンをクリックします。

→ 表示中の映像が静止し、タイムシフトを開始します。



再生ボタンをクリックします。

→ タイムシフト機能を使用した映像の表示を再開します。タイムシフト中は、何度でもポーズ、再生を繰り返すことができます。



標準モードの場合には、ポーズしていた時間がバッファ時間を超えていなければ、ポーズさせた時点の続きから再生されます。バッファ時間を超えていた場合は、現在よりバッファ時間分だけ過去の場面から始まります。

録画モードの場合には、ポーズさせた時点の続きから再生されます。ただし、録画されたファイルの大きさが、制限を越えることはできません。ファイルの制限は、OSがWindows 2000/Windows XPでNTFSの場合、ドライブの残り容量がなくなるまで録画を続けることができます。

OSがWindows Me、またはWindows 2000/Windows XPでFAT32の場合、ドライブの残り容量がなくなるまでファイルを自動的に4GBごと分割保存し、録画を続けることができます(ストリームのみ)。分割されたファイルは、拡張子を変更してもMPEGファイルとして扱えません。

9

停止ボタンをクリックします。

→ タイムシフトを終了し、通常の状態に戻ります。



スライダを操作して、タイムシフトの時間を変更することができます。右に行くほど、現在位置に近づきます。



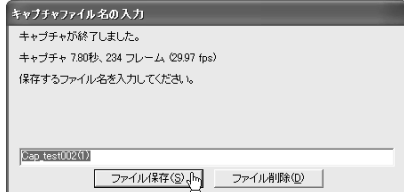
スライダ

2

10

録画モードにしている場合、タイムシフトを停止させると、[キャプチャファイル名の入力]ウィンドウが表示されます。名前を入力し、[ファイル保存]をクリックします。録画ファイルを保存しない場合は、[ファイル削除]をクリックしてください。

→ タイムシフトを終了し、通常の状態に戻ります。



追っかけ再生機能を使用する

TV放送または外部ビデオ機器の映像を録画している時に、再生ボタンをクリックすると、録画を続けながら、すでに録画された部分を見ることができます。ここでは、この追っかけ再生機能について説明します。

1

TVまたはビデオを録画している状態にします。



手順の詳細については、『テレビや外部ビデオ機器の映像を録画する』30ページをご覧ください。

2

再生ボタンをクリックします。

→ 追っかけ機能を使用した映像の再生を開始します。

※ 追っかけ機能使用中は、何度でもポーズ、再生を繰り返すことができます。

※ タイムシフトと同じく、スライダーで追っかけ再生の時間を変更することができます。



追っかけ再生は、タイムシフトと同様に、通常の録画や再生よりもさらに高いCPUやディスクの速度を必要とします。

3

停止ボタンをクリックします。

→ 追っかけ再生を終了し、通常の状態に戻ります。録画も終了します。



4

[キャプチャファイル名の入力] ウィンドウが表示されます。名前を入力し、[ファイル保存]をクリックします。録画ファイルを保存しない場合は、[ファイル削除]をクリックしてください。



静止画キャプチャする

お気に入りの場面を静止画キャプチャし、ファイルに保存する手順について説明します。



Important

静止画キャプチャ時、オーバーレイサイズによっては、縦サイズが実際の半分になる場合があります。

1

静止画キャプチャしたいテレビまたはビデオ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。



Reference

テレビ映像を表示する場合は、『テレビを見る』26ページをご覧ください。



Reference

ビデオ映像を表示する場合は、『外部ビデオ機器の映像を見る』29ページをご覧ください。

2

お気に入りの場面にきたら静止画キャプチャボタンをクリックします。

→ キャプチャされた静止画が、静止画キャプチャウィンドウに表示されます。



3

ファイルに保存する静止画を選択し[保存]をクリックします。

→ [静止画保存ファイルの指定]ウィンドウが表示されます。



保存ボタン

ファイルに保存するサムネイルをクリック

4

静止画を保存するフォルダ、ファイル名、ファイルの種類を指定し、[保存]をクリックします。

※ ファイルの種類をJPEGに設定した場合は、圧縮率も設定してください。

→ 静止画が保存されます。



■ 静止画キャプチャウィンドウについて

静止画の表示および保存・削除を行う静止画キャプチャウィンドウには以下の機能があります。



- ① サムネイル
キャプチャされた静止画を表示します。
- ② キャプチャボタン
クリックすると、静止画キャプチャが実行されます。
- ③ 表示ボタン
静止画を原寸大で表示します。
- ④ 削除ボタン
選択した静止画を削除します。
- ⑤ 全て削除ボタン
サムネイル表示されているすべての静止画を削除します。
- ⑥ 保存ボタン
選択された静止画をファイル保存します。
- ⑦ 閉じるボタン
静止画キャプチャウィンドウを閉じます。



サムネイル表示されている静止画は一時的な保存ですので、静止画キャプチャウィンドウを閉じてしまうと消えてしまいます。お気に入りの静止画は保存作業を行ってください。

第 2 章

TV Recording Manager の操作

この章では、アプリケーション『TV Recording Manager』の操作方法について説明します。

1. TV Recording Manager について 44 ページ
2. CiAgentでのリモート録画予約 62 ページ

■コピーガード付き映像について

本製品は、コピーガード信号付き映像のキャプチャを行うことはできません。

1. TV Recording Manager について

TV Recording Managerは、MTV2200 SX Seriesの関連アプリケーションの1つで、テレビ番組のタイマー予約録画用のアプリケーションです。パソコンを起動すると、TV Recording Managerは自動的に起動し、下図のようにツールバーに表示されます。



TV Recording Manager

マウスの操作とメニュー

TV Recording Managerのアイコン上で、マウスを右/左クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。ここでは、マウスを右/左クリックしたときに表示されるポップアップメニューの内容について説明します。

■ マウスを右/左クリックしたときの共通メニュー

TV Recording Managerのアイコン上で、マウスを右クリックしたときでも、左クリックしたときでも表示される、共通メニューの内容について説明します。

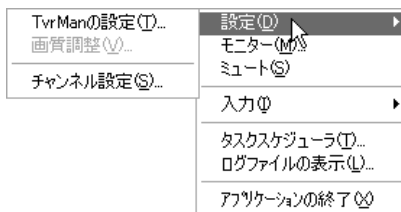
共通メニューは、4種類あります。

設定

TV Recording Managerまたは、チャンネルの設定をします。

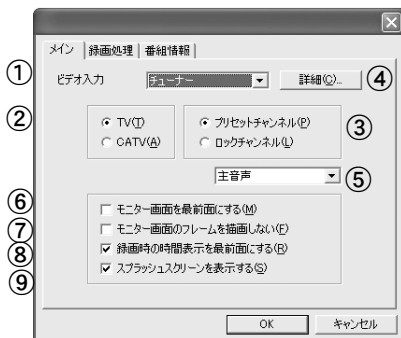
- ・ [設定]→[TvrManの設定]を選択すると、「TvrMan設定」ウィンドウを表示します。
- ・ [設定]→[画質調整]を選択すると、「画質調整」ウィンドウを表示します。
- ・ [設定]→[チャンネル設定]を選択すると、「チャンネル設定」ウィンドウを表示します。

各ウィンドウの設定後、[OK]をクリックすると設定が有効になります。



「TVrMan設定」メインタブ

TV Recording Manager の設定をするタブです。設定項目は以下のとおりです。



① ビデオ入力

入力を切り替えます。コンポジット、S-VIDEO、チューナーのいずれかから選択します。

② TV/CATV

受信波をTV(地上波)、ケーブルTVから選択します。

③ プリセット/ロック

使用するチャンネルをプリセットチャンネル、ロックチャンネルから選択します。ロックチャンネルとは、最初のチャンネル自動設定(オートスキャン)時に、自動設定されるTVチャンネルのことです。



オートスキャンの詳細については、「チャンネルを設定する」22ページをご覧ください。

⑥ モニター画面表示

チェックすると、複数のアプリケーションを起動している場合でも、オーバーレイウィンドウが他のアプリケーションの前に表示されます。

⑦ モニター画面のフレーム表示

チェックすると、モニター画面のフレーム(枠)を描画しません。ただし細枠は表示されます。

⑧ 録画時間表示

チェックすると、予約録画時に表示される「予約録画状態表示」ウィンドウを、常に他のウィンドウの前に表示します。



予約録画の詳細については、「予約録画する-その1-」54ページをご覧ください。

④ 詳細

クリックすると「チャンネル設定」ウィンドウを表示します。

⑤ 音声

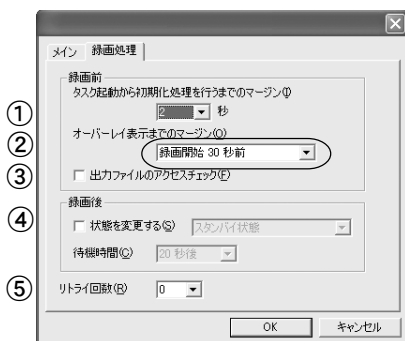
音声の出力形式を選択します。主音声、副音声、主音声+副音声、モノラルから選択できます。

⑨ スプラッシュスクリーン

チェックすると、アプリケーション起動時にスプラッシュウィンドウを表示します。

「TvrMan設定」録画処理タブ

TV Recording Managerの録画時の起動および終了時のオプション設定をするタブです。設定項目は以下のとおりです。



① 初期化マージン

タスク起動時からMTV2200 SX Series 初期化までのマージンを設定します。お使いの環境で、MTV2200 SX Seriesの初期化に失敗する場合、設定を試していただくことをお勧めします。

② オーバーレイ表示マージン

オーバーレイ表示開始までのマージンを設定します。お使いの環境で、オーバーレイの表示に失敗する場合、設定を試していただくことをお勧めします。

③ アクセスチェック

スタンバイ状態からの復帰時に問題が生じる場合、設定を試していただくことをお勧めします。

④ 録画後

録画終了後に、スタンバイ状態にする場合は、チェックを付けます。チェックを付けると、待機時間の設定が行えます。

⑤ リトライ回数

TV Recording Managerで録画予約を行う場合のみ、エラーが発生してもリトライすることができます。リトライする場合は、チェックを付け、回数を設定してください。ただし、ハードウェアの初期化処理、終了処理は、リトライごとに必ず行われます。

「TvrMan設定」番組情報タブ

iEPGを使った番組予約機能に関する設定を行うタブです。iEPG機能を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。設定項目は以下のとおりです。



① インターネット番組情報のURL

iEPG 番組予約に使用する番組表がある URL を入力します。プルダウンリストには、デフォルトの設定が登録されていますので、リストから選択することもできます。[ブラウザで表示] をクリックすると、指定した URL を表示します。

② iEPG

チェックすると、TV Recording Manager に関連付けが行われ、iEPG 機能が使用できるようになります。iEPG 機能を使用する場合は、チェックを必ず付けてください。



デフォルトの設定に含まれていない番組表を入力した場合、番組表から提供される定義ファイルの拡張子を入力するウィンドウが表示されます。



iEPG の設定が完了すると、TV Recording Manager のアイコン上で左クリックした時に表示されるメニューから [インターネット番組表を表示する] が選択できるようになります。

「画質調整」オーバーレイ表示調整タブ

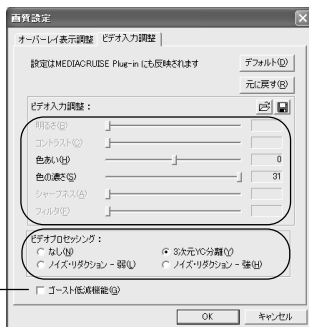
オーバーレイ表示の画質を調整するタブです。お使いのグラフィックボードにより設定できる項目は異なります。設定項目は以下のとおりです。



- ① デフォルト
初期設定に戻します。デフォルト値はお使いのグラフィックボードにより異なります。
- ② 元に戻す
調整した内容を直前の状態に戻します。
- ③ オーバーレイ画像
スライダを使用し、オーバーレイ表示時の画質を変更します。

「画質調整」ビデオ入力調整タブ

ビデオ入力の画質を調整するタブです。お使いのグラフィックボードにより設定できる項目は異なります。設定項目は以下のとおりです。



- ② 元に戻す
調整した内容を直前の状態に戻します。
- ③ ビデオ入力画質
スライダを使用し、ビデオ入力時の画質を変更します。
- ④ ビデオプロセッシング
(16 ページ参照)
- ⑤ ゴースト低減機能
(16 ページ参照)

- ① デフォルト
初期設定に戻します。初期設定値はお使いのグラフィックボードにより異なります。



- ・ 画質調整で設定された内容はMEDIACRUISEにも反映されます。
- ・ 最初にゴースト低減機能が働くまで1～2秒かかり、信号の遅延と減衰の解析を終えるまでには1分程度かかります。チャンネルを切り替えるたびにこの動作を繰り返します。予約録画を行う場合は、この時間を考慮して予約開始時間の設定を行うことをお勧めします。

「チャンネル設定」TVタブ

放送局(地上波)のチャンネル一覧表を表示するタブです。設定項目は次のとおりです。



① プリセット

プリセットチャンネルの内容が表示されます。

③ ロック/放送局

ロックチャンネルの内容が表示されます。

② 地域

アプリケーションの使用場所を表示します。[地域変更]をクリックすると、[都道府県の選択]ウィンドウが表示され、アプリケーションの使用場所を選択できます。

④ チャンネルスキャン

TV放送のオートスキャンを行います。

「チャンネル設定」CATVタブ

CATV放送局のチャンネル一覧表を表示するタブです。設定項目は次のとおりです。



① プリセット

プリセットチャンネルの内容が表示されます。

③ チャンネルスキャン

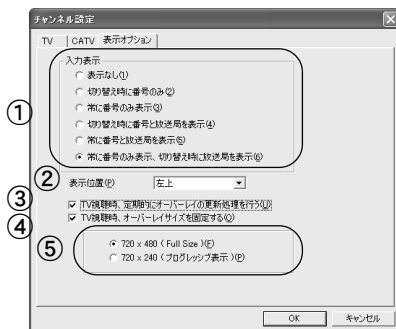
TV放送のオートスキャンを行います。

② ロック/放送局

ロックチャンネルの内容が表示されます。

「チャンネル設定」表示オプションタブ

モニター時のチャンネル表示の形式や、表示位置などを設定するタブです。設定項目は、次のとおりです。



① チャンネルの表示

モニター時の、チャンネルの表示形式を設定します。

② 表示位置

モニター時の、チャンネルの表示位置を設定します。

③ TV視聴時、定期的にオーバーレイの更新処理を行う

TV出力機能を持ったグラフィックボードをお使いの場合で、オーバーレイが更新されない現象が生じた時にこの設定をお試しください。ただし、更新を非同期で行うため、カクカクした動きになる場合があります。

④ TV視聴時、オーバーレイサイズを固定する

オーバーレイサイズを固定し、縮小処理をお使いのグラフィックボードで行います。

⑤ 表示方法

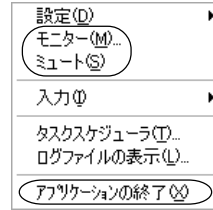
オーバーレイの表示方法を選択します。「TV視聴時、オーバーレイサイズを固定する」にチェックを付けた場合のみ、選択可能です。



720x240プログレッシブ表示はOdd、Evenの両フィールドを同一箇所に表示する表示方法です。そのため表示の性質上、画面が上下にふるえて見えることがあります。

モニター

クリックすると、TV番組のモニターを開始します。もう一度クリックする(チェックマークを外す)と、モニターを終了します。表示されているオーバーレイウィンドウ(モニター)上で左ダブルクリックするとオーバーレイウィンドウがフルスクリーン化し、右クリックするとサブメニューが表示されます。



ミュート

クリックすると、ミュートを行います。もう一度クリックする(チェックマークを外す)と、ミュートを終了します。

アプリケーションの終了

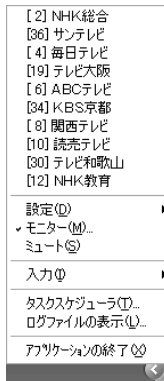
クリックすると、TV Recording Managerを終了します。



表示されているオーバーレイウィンドウ(モニター)上で右クリックするとサブメニューが表示され、ウィンドウの縦横比、ウィンドウサイズが設定できます。

<input checked="" type="checkbox"/> アスペクト比固定(4:3) (A) <input type="checkbox"/> アスペクト比固定(16:9) (B)
サイズ 720 x 480 (7) サイズ 640 x 480 (8) サイズ 352 x 240 (9)
フルスクリーン (E)
モニターの終了(O)

モニターの実行中(モニターにチェックがついている状態)に、TV Recording Managerのアイコン上で、マウスを右クリックする(もしくはオーバーレイ上で中心をクリックする)と、切り替え可能なチャンネルがメニューに表示されます。



■ マウスを右クリックしたときのメニュー

TV Recording Manager のアイコン上で、マウスを右クリックしたときに表示されるポップアップメニューの内容について説明します。

[入力]→[コンポジット入力]

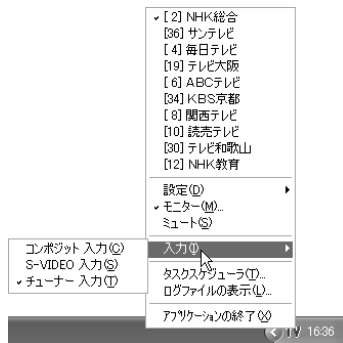
入力をコンポジットに切り替えます。

[入力]→[S-VIDEO入力]

入力をS-VIDEOに切り替えます。

[入力]→[チューナー入力]

入力をチューナー入力に切り替えます
(テレビチューナー接続時)。



■ マウスを左クリックしたときのメニュー

TV Recording Manager のアイコン上で、マウスを左クリックしたときに表示されるポップアップメニューの内容について説明します。

バージョン情報

アプリケーションのバージョンを表示します。

MEDIACRUISE の起動

MEDIACRUISE を [VIDEO PLAYER] モード、[VIDEO RECORDER] モードもしくは [MTV] モードのいずれかで起動します(すでに起動している場合は、選択できません)。

MEDIACRUISE で番組を録画する

現在モニターしている番組をMEDIACRUISE でキャプチャを行います。

インターネット番組表を表示する

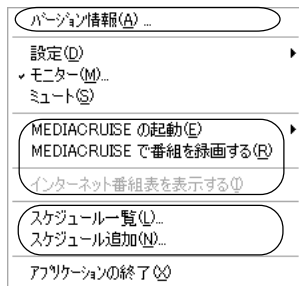
TvrMan設定の番組情報の設定(p. 47 参照)が完了していれば、選択できるようになります。インターネットに接続し、番組表を表示します。

スケジュール一覧

「予約一覧」ウィンドウを表示します。

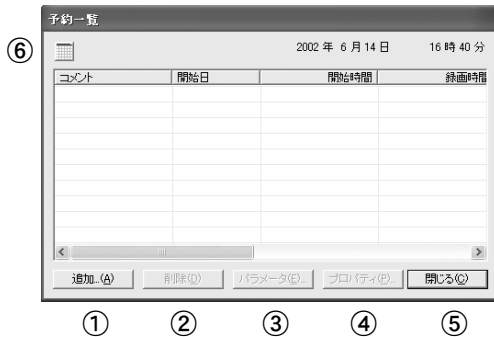
スケジュール追加

新しい、録画予約データを追加します。操作手順および表示内容は、「予約一覧」ウィンドウで追加ボタンを押した場合と同じです。



「予約一覧」ウィンドウ

TV番組の録画、視聴予約の設定内容を確認、変更するウィンドウです。ドラッグ&ドロップで項目名の順序を入れ替えることもできます。設定項目は以下のとおりです。



① 追加ボタン

新しい、録画・視聴予約データを追加します。クリックすると、設定用ウィンドウが順に(設定内容によって表示されるウィンドウの種類、数は異なります)表示されますので、設定を行います。全ての設定が終了したら、[完了]をクリックします。

② 削除ボタン

不要となった録画・視聴予約データを削除します。削除したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[削除]をクリックすると、データが削除されます。

③ パラメータボタン

作成した予約データの詳細内容を確認することができます。確認したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[パラメータ]をクリックすると、データ内容が表示されます。データ内容は、複数のタブに分けて表示されます。

④ プロパティボタン

作成した予約データのプロパティを表示します。プロパティを見たい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[プロパティ]をクリックすると、選択した録画・視聴予約データのプロパティが表示されます。

⑤ 閉じるボタン

クリックすると「予約一覧」ウィンドウを閉じます。

⑥ カレンダー表示ボタン

カレンダーを表示します。ただしカレンダーからの設定変更などは行えません。



毎日および毎週の予約設定の場合、予約を一時無効化することができます(p. 55手順2. 参照)。無効化した場合は、一覧のコメント部分に「!」が表示されます。ただし、無効化している場合でもタスクスケジューラから起動し、ログを残します(スタンバイ状態からも復帰します)。

予約録画する-その1-

TV Recording Managerのスケジュール機能を利用したTV番組予約録画について説明します。スケジュール機能を利用した予約録画を行う場合は、予約録画が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、Windows 2000/Windows XP環境では、タスクスケジューラの復帰に予約時に使用したアカウント(パスワード)が必要です。



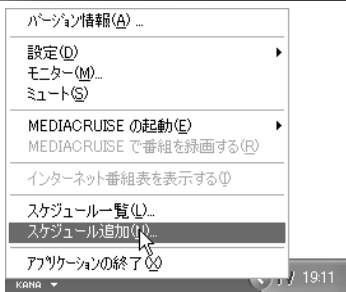
予約録画を行う場合は、前もってパソコンの内蔵時計を正しい日付、時刻に設定しておいてください。

日付、時刻の設定は、[スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]を選択し、[コントロールパネル]画面の「日付と時刻」をダブルクリックすると表示される、[日付と時刻のプロパティ]ウィンドウで行ってください。調整後は、一度タスクスケジューラを停止し、再開することをお勧めします。予約録画で設定できるのは、プログラムストリーム、システムストリームのみです。また、予約時は、パソコンのタスクスケジューラの機能を利用しています。

1

TV Recording Managerのアイコン上で、マウスを左クリックし、[スケジュール追加]を選択します。

→ [予約日]ウィンドウが表示されます。



2

予約間隔、開始日、終了日、開始時間、終了時間、継続時間について設定し、[次へ]をクリックします。

→[チャンネル]画面が表示されます。

※ 毎日および毎週の予約設定時には、一時的に予約を無効化することができます。

無効化する場合は[この予約を無効にする]にチェックを付けてください(p. 53のMemoもご参照ください)。



OSがWindows 2000/Windows XPでNTFSの場合、ドライブの残り容量がなくなるまで録画を続けることができます。

OSがWindows Me、またはWindows 2000/Windows XPでFAT32の場合、ドライブの残り容量がなくなるまでファイルを自動的に4GBごと分割保存し、録画を続けることができます(ストリームのみ)。分割されたファイルは、拡張子を変更してもMPEGファイルとして扱えません。

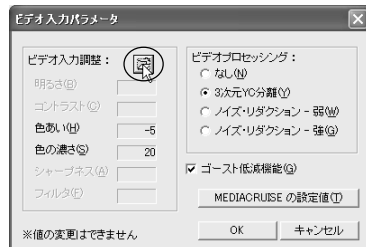
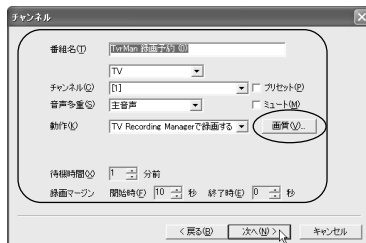
3

番組名、チャンネル、音声、動作、画質、待機時間、録画マージンについて設定し、[次へ]をクリックします。

→ [出力]画面が表示されます。

※ [画質]をクリックすると、ビデオ入力パラメータが表示されます。パラメータファイル読み込みアイコンを押すと、保存されているパラメータ(MVRファイル)を読み込むことができます。

※ テレビチューナーユニット(TBOX)を使用しない場合、チャンネル(TV)は選択できません。



ファイル名、パラメータ、オプション、アルバム名について設定し、[次へ]をクリックします。

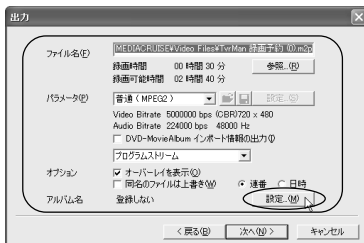
※ オプションにチェックをつける
と以下のことができます。

連番

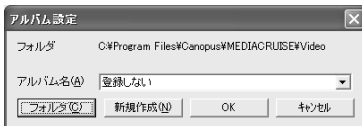
同名ファイルが存在する場合、ファイル名に連番をつけます。

日時

必ず日時をファイル名につけます。

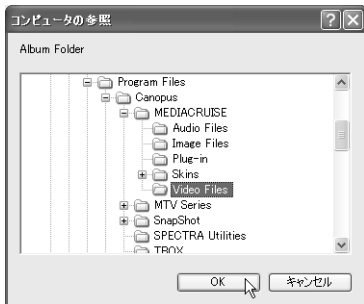


アルバム名を設定する場合は[設定]をクリックし、以下の手順でフォルダ、アルバム名を確認します。



クリック

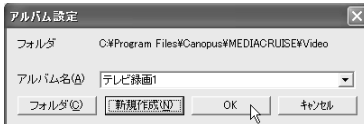
クリック



フォルダを選択し、[OK]をクリックします。



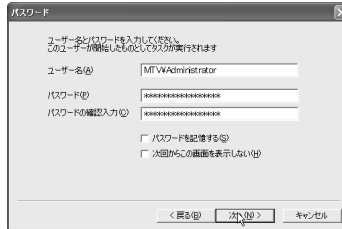
新規アルバムを登録する場合は、アルバム名を入力し[OK]をクリックします(既存のアルバムを使用する場合は、アルバム設定ウィンドウのプルダウンメニューから選択します)。



フォルダ、アルバム名を確認し、[OK]をクリックします。



Windows 2000/Windows XP 環境では手順4の後に、Windows 2000/Windows XP のアカウントに関する設定ウィンドウが表示されます。予約を行った時と同じアカウントを必ず設定してください。この設定を間違った場合は、タスクスケジューラがアプリケーションの実行に失敗するため予約録画を実行できません。



例) 予約を行った時のアカウント(ユーザー名)とは…

[WORKGROUP] コンピュータ名¥ユーザー名
[DOMAIN] ドメイン名¥ユーザー名

※ Windows XP Home Editionは、WORKGROUPのみです。

5

[完了]をクリックします。

→ 設定内容に従って、予約録画が行われます。



Reference

予約録画の設定内容の確認については、p. 61 のMemo をご参照ください。

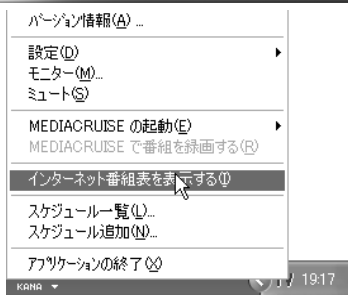
予約録画する-その2-

iEPG番組表を利用したTV番組予約録画について説明します。この機能を利用するためには、インターネットに接続できる環境と、TvrMan設定の番組情報をあらかじめ設定しておく必要があります。予約録画を行う場合は、予約録画が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、Windows 2000/Windows XP環境では、タスクスケジューラの復帰に予約時に使用したアカウント(パスワード)が必要です。ここでは、テレビ番組情報サイト「テレビ王国」を例に手順を説明します。

1

TV Recording Managerのアイコン上で、マウスを左クリックし、[インターネット番組表を表示する]を選択します。

→ インターネットへ接続し、番組表が表示されます。地域などをお使いの環境に合わせて選択してください。



2

予約を行いたい番組の予約ボタンをクリックします。



OSがWindows 2000/Windows XPでNTFSの場合、ドライブの残り容量がなくなるまで録画を続けることができます。
OSがWindows Me、またはWindows 2000/Windows XPでFAT32の場合、ドライブの残り容量がなくなるまでファイルを自動的に4GBごと分割保存し、録画を続けることができます(ストリームのみ)。
分割されたファイルは、拡張子を変更してもMPEGファイルとして扱えませぬ。

3

番組内容を確認し、[次へ]をクリックします。

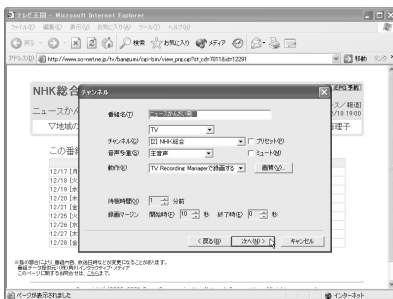
→ 番組終了時間を延長したい場合は、[延長]のプルダウンメニューから時間を選択してください。



4

番組名、チャンネル、音声、動作、待機時間、録画マージンについて設定し、[次へ]をクリックします。

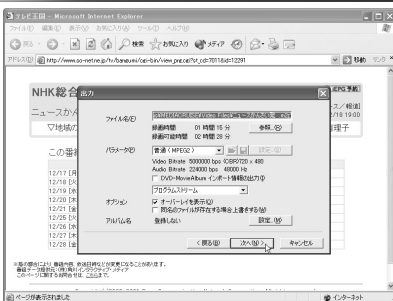
→ [出力]ウィンドウが表示されます。



5

ファイル名、パラメータ、オプション、アルバム名について設定し、[次へ]をクリックします。

→ Windows 2000/Windows XP環境でご使用の場合は、p. 57のアカウントに関するMemoもあわせてご参照ください。

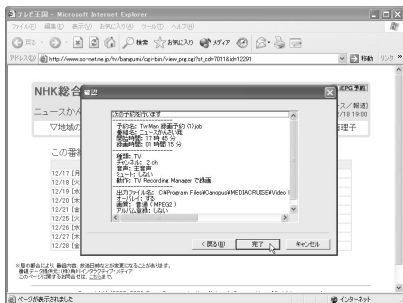


1

TVRecording Manager WNDOW

[完了]をクリックします。

→ 設定内容に従って、予約録画が行われます。



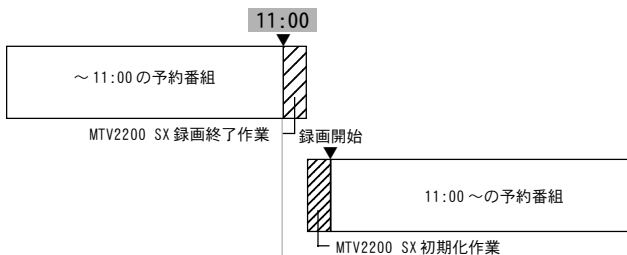
Reference

予約録画の設定内容の確認については、p. 61のMemoをご参照ください。

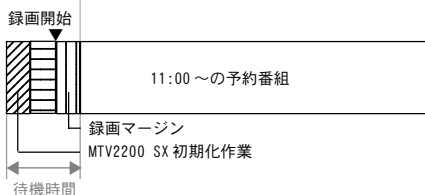


たとえば、同じ日の10:00～11:00、11:00～12:00といった2つの番組を予約した場合、警告メッセージが表示されます。これは、[待機時間]で設定された時間を予約と予約の間にとれないためです。また、この場合11:00～の予約分の頭が少し切れた状態になります。これは11:00までの予約分が11:00にMTV2200 SXの録画終了処理を行い、その後11:00～の予約分がMTV2200 SXの初期化後に録画を開始するためです。これを防止するためには、iEPG予約後に予約開始・終了時間などの調整を行っていただく必要があります。

- 録画の終了と開始時間が同じ場合の動作



- 通常の動作





予約録画の設定内容は、[予約一覧]ウィンドウで確認することができます。

TV Recording Managerのアイコン上で、マウスを左クリックし、[スケジュール一覧]を選択すると、[予約一覧]ウィンドウに予約内容が表示されます。

※ [予約一覧]はタスクスケジューラ自体のプロパティを表示するものです。



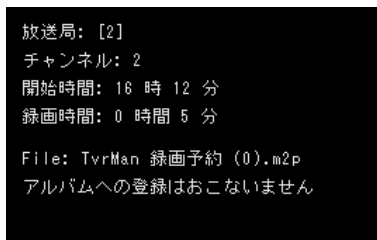
予約録画を開始すると、パソコンのモニタ上にオーバーレイウィンドウと予約録画状態表示画面が表示されます。

録画状態表示画面の内容は次の通りです。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦



- ① 録画時間が表示されます。
- ② 録画時は「REC」、録画待機中は「PAUSE」と表示されます。
- ③ 録画チャンネルが表示されます。
- ④ クリックすると、録画状態が表示されます。



- ⑤ クリックすると、録画時間を5分間延長するかを確認する画面が表示されます。[はい]をクリックすると、録画時間が5分間延長されます。
- ⑥ クリックすると、追っかけ再生を開始します。
- ⑦ クリックすると、予約録画を中断するかを確認する画面が表示されます。[はい]をクリックすると、予約録画を中断します(ファイルは保存されます)。

2. CiRAgentでのリモート録画予約

遠方へ外出したときなど、iモードやパソコンからインターネットを利用し、テレビ録画の予約をすることができます。ここでは、テレビ番組情報サイト「テレビ王国」の手順を説明します。



Important

予約録画を行う場合は、必ずパソコンとテレビチューナーユニットの電源を入れておいてください。スリープモードやスタンバイモード、またはテレビチューナーユニットの電源が切れている場合は、録画できません。

1

iモードなどの端末から「テレビ王国」へ接続します。

→ テレビ王国のURLは「http://www.so-net.ne.jp/tv/」です。iモードをご利用になる場合のURLは「http://imode.so-net.ne.jp/tv/」です。

※ アドレスは予告無く変更される場合があります。

2

番組リストから録画したい番組を選択します。

→ 予約を確認するメッセージが表示されます。

3

「はい」を選択します。

→ 「テレビ王国」のサーバーに登録されますので、予約はこれで完了です。



Reference

予約方法の詳細内容は「テレビ王国」をご覧ください。



TV王国のパスワードを変更した場合、必ずCanopus CiRAgent設定で再設定してください。設定が異なる場合、予約情報が反映されません。



サーバーの予約設定待ち一覧に、録画時間が過ぎている予約が表示されている場合、それを削除してから新規の予約を行ってください。



リモート録画予約のしくみ

iモードやインターネットカフェなどの外出先からインターネットを利用し、ご自宅のパソコンにTV録画することをリモート録画予約と呼んでいます。まず、インターネット上で録画予約した情報がテレビ王国のサーバーへ登録されます。

パソコンにインストールされているCiRAgentが、接続時間になるとインターネットに接続し、テレビ王国のサーバーに登録されている録画予約情報をダウンロードします。その後、予約完了のメールが届きます。録画予約に失敗した場合は、その通知メールが届きます。

予約した時間になると、ご自宅のパソコンが録画を開始します。



Important

CiRAgentは、設定された接続時間のみサーバへ接続するため、録画予約やキャンセルが実行されない場合があります。

第 3 章

DV-MPEG File Converter

この章では、DV-MPEG File Converter の使用方法について説明します。

- | | |
|-------------|--------|
| 1. 起動と各部の機能 | 64 ページ |
| 2. ファイルの変換 | 67 ページ |



Light

1. 起動と各部の機能

ここでは、DV-MPEG File Converterの起動方法および各部の機能について説明します。

DV-MPEG File Converterの機能

DV-MPEG File Converterは、DVファイルからMPEG1/2ファイルへのファイルコンバーターで、MTV2200 SX Seriesボード上のハードウェアMPEGエンコーダを使用して高速変換を行います。次の形式のAVIファイルをMPEG1/2ファイルに変換できます。

- Canopus DV(参照AVIも可。ただし参照AVIではない、2GBを超えるファイルは不可)。
- Canopus Motion-JPEG(720×480画素、29.97フレーム/秒のファイルのみ。Canopus Motion-JPEG再生ドライバが必要です)。
- Microsoft Type1 DV
- Microsoft Type2 DV

起動方法

DV-MPEG File Converterの起動方法について説明します。

1

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[Canopus MTV Series]→[DV-MPEG File Converter]と進んで『DV-MPEG File Converter』を起動してください。

※ Windows Me/Windows 2000環境の場合、[すべてのプログラム]が[プログラム]と表示されます。

各部の機能

DV-MPEG File Converter を起動すると以下のウィンドウが表示されます。



ウィンドウは▼ボタンをクリックした状態のもので、画面は説明用ですので実際に表示されるウィンドウとは異なります。

- ① 変換元ファイルを指定します。



エクスプローラからのドラッグ&ドロップでも指定できます。

- ② 変換元ファイルのプレビューを行うためのメニューを表示します。



お使いのパソコン環境によりメニューの表示内容は異なります。

- ③ ▼ボタンをクリックすると開始フレーム及び終了フレームを指定するためのウィンドウが拡張表示されます。▲ボタンをクリックすると元のウィンドウに戻ります。

- ④ 数値を直接入力するか、スライダを使用して開始フレームを指定します。

- ⑤ 数値を直接入力するか、スライダを使用して終了フレームを指定します。

- ⑥ オプション設定ウィンドウを表示します。

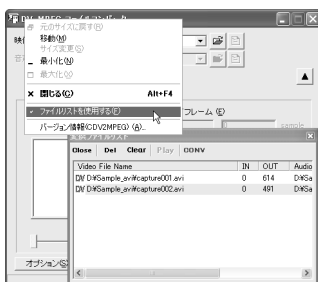
- ⑦ ファイル変換を行うためのウィザードを開始します。

- ⑧ DV-MPEG File Converterを終了します。

- ⑨ 複数ファイルをコンバートする場合メニューから[ファイルリストを使用する]を選択します。



変換を行う複数のファイルを[変換ファイルリスト]にドラッグするなどしてリストに加え、[CONV]をクリックすることでファイルの一括変換が行えます。



開始フレーム及び終了フレームのプレビュー画面上でダブルクリックした場合、フレームリストを表示します。◀▶ボタンをクリックすると表示するフレームを 後させることができます。また、リスト上にある画面を左クリックすることで、フレームの指定を行うことができます。



開始フレーム及び終了フレームのプレビュー画面上で右クリックした場合、該当フレームのキャプチャを行います。[ビットマップのコピー]を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャがクリップボードに転送されます。[ビットマップの保存]を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャをファイルとして保存することができます。また、プレビュー画面上で左ドラッグし、デスクトップ上でドロップすることでも該当フレームの画面キャプチャをファイルとして保存できます(ただしこの場合、ファイル名は自動的に割り当てられます)。

[ビットマップの表示]を選択すると、BitmapViewに静止画が表示されます。




2. ファイルの変換


ファイル変換の手順

ファイル変換の手順について説明します。

1

[映像]もしくは[音声]フィールドに変換元のファイル名を直接入力するか、 ボタンをクリックしファイルを指定する、またはエクスプローラから直接ファイルをドラッグ&ドロップしファイルを指定します。



音声があらかじめキャプチャされたDV形式AVIのファイル変換を行う場合は、[音声は映像と同じファイルを使用]にチェックをつけてください。変換元のファイルのプレビューを行う場合は、 ボタンをクリックしてください。

2

ファイルの一部分だけを変換する場合は、▼ボタンをクリックし、拡張表示の状態にします。スライダを使用し、開始フレーム及び終了フレームを指定し、[コンバート]をクリックします。ファイル全体をコンバートする場合は、ファイル選択後、[コンバート]をクリックし、手順5に進んでください。



▲ボタンをクリックすると手順1のウィンドウに戻ります。

変換時のオプション設定を行う場合は、[オプション]をクリックします。設定後、[OK]をクリックしてください。



フィルタタブ

垂直フィルタ

動きが少ない画像に対して、ちらつきを抑えるフィルタです。設定値が[100]の場合は、プログレッシブ表示と同等の状態になります。

垂直フィルタを使用する場合は、チェックを付けます。チェックを付けると[強さ]がアクティブになり、設定できるようになります。

強さ

フィルタのかかり具合をスライダを使用して調整します。

マトリックスフィルタ

動きが激しい画像に対して、ざわつきを抑えるフィルタです。

マトリックスフィルタを使用する場合は、チェックを付けます。チェックを付けると[種類]がアクティブになり、プルダウンメニューから選択できるようになります。

種類

▼ボタンをクリックし、プルダウンメニューからプリセットされている設定を選択します。

プレビュー(開始フレーム/終了フレーム)

設定したフィルタのトライアルプレビューを行います。[開始フレーム]もしくは[終了フレーム]のどちらか効果を確認したい方を選択すると、[BitmapView]画面が表示されます。フィルタ効果の参考にしてください(表示された静止画は実際に変換されたデータではなく、設定値を演算したものです)。

コーデックタブ

変換で使用するコーデックを選択します。このタブおよび一覧表は、DV-MPEG File Converter で使用可能なコーデックが複数存在しない場合には表示されません。

4

複数のファイルを連続してコンバートする場合は、システムメニューから[ファイルリストを使用する]を指定し、[変換ファイルリスト]を起動します。

[変換ファイルリスト]へのファイルの登録は、ファイルを指定後、[追加]をクリックします。

→ [変換ファイルリスト]を起動させると、[コンバート]ボタンが[追加]ボタンに変わります。



IN点、OUT点などの表示幅は、左ドラッグで調整でき、ダブルクリックでデフォルトの幅に戻ります。

Close

ファイルリストを閉じます。終了時には登録されている情報は破棄されます。

Del

ファイルリスト上の選択されているアイテムを破棄します。

Clear

ファイルリストのアイテムをすべて破棄します。

Play

変換後のファイルを再生して確認します。

Conv

ファイルリストのアイテムを順番に変換します。変換が正常に終了した場合、アイコンがOKになります。失敗した場合にはNGになります。

アイテム上での右クリック

選択しているアイテムだけを交換します。

アイテム上でのダブルクリック

選択しているアイテムをメインの画面上で表示します。メインの画面上で開始フレーム、終了フレームを変更した場合、[追加]ボタンで再度登録する必要があります。



エクスプローラから複数のファイルをドラッグ&ドロップでリストに追加することができます。メインの画面に複数のファイルをドラッグ&ドロップした場合は、自動的に[変換ファイルリスト]が起動します。

2

ファイル変換後に作成されるMPEG
ファイル形式を指定します。

→ 設定後、[次へ]をクリックし
ます。



MPEG1 システム ストリーム

ビデオとオーディオを多重化して1
つのファイルに記録します。

MPEG1 エレメンタリ ストリーム

ビデオとオーディオをエンコードし
てそれぞれ別個のファイルとして同
時に記録します。[映像]もしくは[音
声]を指定することで映像または音声
を単独でエンコードできます。[Wave
ファイルとして保存]にチェックを入
れた場合は、映像をエンコードし、音
声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞ
れ別個のファイルに同時に記録でき
ます。

MPEG2 プログラム ストリーム

ビデオとオーディオを多重化して1
つのファイルに記録します。

MPEG2 エレメンタリ ストリーム

ビデオとオーディオをエンコードし
てそれぞれ別個のファイルとして同
時に記録します。[映像]もしくは[音
声]を指定することで映像または音声
を単独でエンコードできます。[Wave
ファイルとして保存]にチェックを入
れた場合は、映像をエンコードし、音
声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞ
れ別個のファイルに同時に記録でき
ます。

Video CD

Video CD形式に準拠したMPEG1ファ
イルを作成します。音声のサンプリ
ングレートが44100Hzで記録されて
いないデータの場合、この項目は選
択できません。

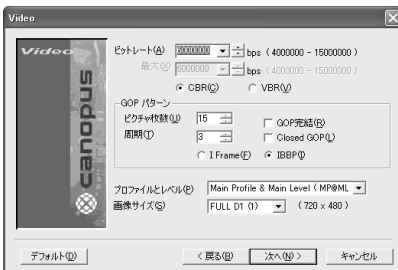
DVD-MovieAlbumインポート情 報を作成する

DVD-MovieAlbumインポート情報を出
力します。音声のサンプリングレ
ートが48000Hzの場合に選択でき
ます。

ビデオデータに関する設定を行います。

→ 設定後、[次へ]をクリックします。

● Video CD を選択した場合



変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。Video CD を選択した場合、手順7に記載されているオーディオに関する設定をここでを行います(設定項目の説明については次ページ参照)。

ビットレート

ビデオデータのビットレートと符号化形式を設定します。ビデオビットレートは400bps単位で設定します。400bps単位で指定しなかった場合は自動的に400bps単位の設定値に変更されます。ビットレートを高くすると画質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。ビデオデータの符号化形式はCBR、VBRのいずれかに設定します。VBRを選択した時のみ、最大ビットレート(400bps単位)も同時に設定することができます。

GOPパターン

GOPパターンをI Flame(1ピクチャのみで構成されるGOP)、IBBP(1/B/Pの3つのピクチャから構成されるGOP)のいずれかに設定し、以下のパラメータを設定することができます。

ピクチャ枚数

GOP内に含まれるピクチャ枚数を1~30の範囲で設定します。I Flame選択時にはピクチャ枚数は1に固定されます。

周期

1もしくはPピクチャが現れる周期を1~3の範囲で設定します。I Flame選択時には周期は1に固定されます。

GOP完結

この設定を行うと、1つのGOP分のビデオデータとそれに付随するオーディオデータを格納するバックの集まりを1つの単位とし、その中で1つのGOPが完結します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

Closed GOP

GOP内の画像が他のGOPから独立して再生可能なことを示すClosed GOPフラグを設定します。

プロファイルとレベル

プロファイルとレベルを設定します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

画像サイズ

キャプチャファイルの画像サイズを設定します。ファイル形式としてMPEG1を選択した場合は、コンボボックスは表示されません。

オーディオデータに関する設定を行います。

→ 設定後、[次へ]をクリックします。



変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。

サンプリングレート

オーディオ信号のサンプリングレートが表示されます。

ビットレート

オーディオデータのビットレートを設定します。ビットレートを高くすると音質は良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。

形式

オーディオデータの形式を設定します。「Layer2」以外の形式は選択できません。

チャンネル

オーディオチャンネルの種類を設定します。

エンファシス

エンファシスエンコードを行う場合に設定します。

プロテクション

CRCエラーの検出が行えるファイルを作成する場合にチェックをつけます。

オリジナル

オリジナルビットをつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。

コピーライト

著作権情報をつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。

データの出力に関する設定を行います。



変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。

映像ファイル

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2 エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される映像ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照] 及び [ファイル参照] のボタンが有効になります。

音声ファイル

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2 エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される音声ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照] 及び [ファイル参照] のボタンが有効になります。

MPEGファイル

変換するファイル形式がMPEG1 システムストリーム、MPEG2 プログラムストリームもしくはVideo CDの場合は、変換後に作成されるファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照] 及び [フォルダ参照] のボタンが有効になります。

出力フォルダ

[出力フォルダを指定する] にチェックをつけた場合、変換後のファイルを任意のフォルダ内に作成することができます。出力するフォルダを指定してください。この場合、アクティブ状態のフィールドにはファイル名のみ(ファイル名のキー入力も可能)が表示されます。[ドライブ参照] 及び [フォルダ参照] のボタンが有効になります。

プレビュー

変換作業中にプレビュー画面の表示を行う場合は、チェックをつけてください。



複数ファイル変換時には出力フォルダのみの指定となり、ファイル名の設定は行えません。自動的にソースファイル名の拡張子だけ変更したファイルが作成されます。また、同名のファイルが存在する場合は、無条件に上書きを行います。

9

[コンバート]をクリックします。
→ ファイルの変換を開始します。



10

ファイルのコンバートが終了しました。

- コンバートされたファイルを再生する場合は、[再生]ボタンをクリックします。
- DV-MPEG File Converterを終了する場合は、[完了]ボタンをクリックします。



複数ファイル変換時には、変換後のファイル名およびファイルサイズは表示されません。変換後のファイル再生は、この終了ウィンドウからではなく、[変換ファイルリスト]から Play を選択してください。

以上でファイルの変換作業は完了です。

第 4 章

MPEG Hardware Exporter

MTV2200 SX Series と当社製『DVStorm-RT』を組み合わせることで、MTV2200 SX Series のハードウェアエンコード機能を DVStorm-RT に付加した MPEG ファイルへの変換が行えます。

1. MPEG Hardware Exporter について 76 ページ
2. MPEG ファイルへの変換 78 ページ

1. MPEG Hardware Exporterについて

DVStorm-RTとの連携

DVStorm-RTとMTV2200 SX Seriesを組み合わせることで、DVStorm-RTにMPEGファイルのハードウェアエンコード機能を付加できます。この機能を利用するためには、まずDVStorm-RTおよびMTV2200 SX Seriesのドライバおよび専用アプリケーションがあらかじめインストールされており、かつ正常動作している必要があります（Adobe Premiere上で使用する場合は、Premiereがあらかじめインストールされている必要があります）。

各製品のインストール手順等は、製品に付属されているマニュアルをご覧ください。

MPEG Hardware Exporterのアンインストール

MTV2200 SX Seriesのハードウェアエンコード機能をDVStorm-RTで使用するためには、『MPEG Hardware Exporter』が必要です。MPEG Hardware ExporterはMTV2200 SX Series専用アプリケーションのインストール時に、インストールコンポーネント選択画面において『MPEG Hardware Exporter for DVStorm/for Premiere』を選択するとインストールされます。

MPEGソフトエンコーダをインストールしている環境では、MTV2200 SX Seriesのハードウェアエンコーダが優先となるため、MPEGソフトエンコーダは使用できなくなります。MPEGソフトエンコーダを使用する場合は、以下の手順でMPEG Hardware Exporterをアンインストールしてください。ここではWindows XP環境でのアンインストールを例に説明します。

- ※ アンインストール作業を開始する前に、現在起動しているすべてのアプリケーションや常駐ソフトウェアを終了してください（TV Recording Managerも、あらかじめ終了させてください）。
- ※ Windows 2000/Windows XP環境へアンインストールする場合は、システム変更の設定を行える資格を持つユーザーID（Administrator、コンピュータの管理者等）でログオンしてください。

1

[スタート]メニューから[マイコンピュータ]へ進み、システムのタスクから[プログラムの追加と削除]をクリックしてください。

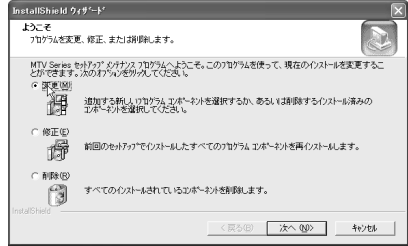
2

削除できるソフトウェアの一覧が表示されますので[MPEG Series]を選択し、[変更と削除]をクリックしてください。



3

[変更]を選択し、[次へ]をクリックしてください。

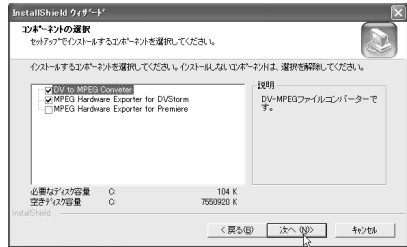


4

アンインストールする MPEG Hardware Exporter を選択し、[次へ]をクリックしてください。

→ アンインストールするコンポーネントのチェックマークを外します。

※ 画面は、MPEG Hardware Exporter for DVStorm をアンインストールする場合です。



5

[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選択し、[完了]をクリックしてください。

→ コンピュータを再起動します。

→ Canopus MPEG Hardware Exporter のアンインストールは完了です。



■ MTV2200 SX Series と DVStorm-RT の併用時の制限事項

MTV2200 SX Series と DVStorm-RT の併用時には、スタンバイモードが無効になります。そのため、スタンバイモードからの予約録画は行えません。

2. MPEGファイルへの変換

StormEditでの変換-タイムライン全体-

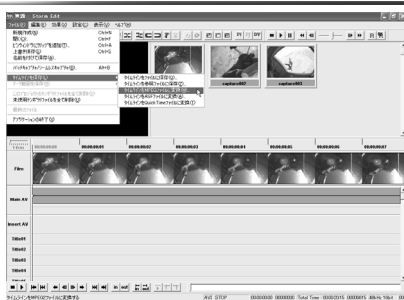
MTV2200 SX Seriesを使用することで、StormEditのタイムライン上にあるビデオデータをMPEGファイル形式へ変換することが可能になります。ここではタイムライン全体を変換する方法を説明します。30フレーム未満のクリップは変換できません。



変換後のMPEG形式ファイルは、StormVideoおよびStormEditではプレビューできません。

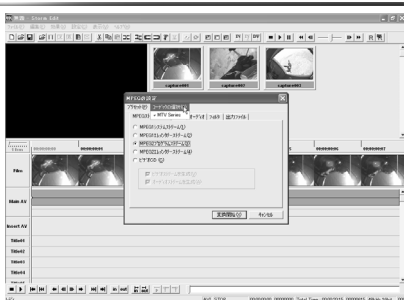
1

[ファイル]メニューから[タイムラインをMPEGファイルに変換]を選択します。



2

[コーデックの選択]メニューをクリックし、[MTV Series]にチェックが付いていることを確認します。



MTV2200 SX Seriesのインストールに失敗している場合は、[コーデックの選択]メニューおよび[変換開始]のボタンは表示されません。

ファイル変換後に作成されるMPEG
ストリーム形式を指定します。



MPEG1 システムストリーム

ビデオとオーディオを多重化して1つのファイルに記録します。

MPEG1 エレメンタリーストリーム

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[ビデオストリーム]もしくは[オーディオストリーム]を指定することでビデオまたはオーディオを単独でエンコードできます。

MPEG2 プログラムストリーム

ビデオとオーディオを多重化して1つのファイルに記録します。

MPEG2 エレメンタリーストリーム

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[ビデオストリーム]もしくは[オーディオストリーム]を指定することでビデオまたはオーディオを単独でエンコードできます。

ビデオ CD

Video CD形式に準拠したMPEG1ファイルを作成します。元データのオーディオサンプリングレートに関係なく、サンプリングレートは44.1kHz/16Bitに変換されます。



変換するMPEGストリーム形式により以降の手順で行うビデオ・オーディオ等のタブで設定可能な項目は異なります。

[ビデオ]タブをクリックし、ビデオデータに関する設定を行います。



変換するMPEGストリーム形式により表示ウィンドウは異なります。

プロファイルとレベル

プロファイルとレベルを設定します。作成するストリーム形式がMPEG1の場合は表示されません。

イメージサイズ

画像サイズを設定します。ストリーム形式としてMPEG1を選択した場合は、コンボボックスは表示されません(MPEG1形式のイメージサイズは、352x240に固定されます)。

ビットレートコントロール

ビットレート

ビデオデータのビットレートと符号化形式を設定します。ビデオビットレートは400bps単位で設定します。400bps単位で指定しなかった場合は自動的に400bps単位の設定値に変更されます。ビットレートを高くすると画質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。ビデオデータの符号化形式はCBR、VBRのいずれかに設定します。VBRを選択した時のみ、最大ビットレート(400bps単位)も同時に設定することができます。

GOPパターン

GOPパターンをI フレーム(Iピクチャのみで構成されるGOP)、IBBP(I/B/Pの3つのピクチャから構成されるGOP)のいずれかに設定し、以下のパラメータを設定することができます。

ピクチャ枚数

GOP内に含まれるピクチャ枚数を1~30の範囲で設定します。I フレーム選択時にはピクチャ枚数は1に固定されます。

GOP完結

この設定を行うと、1つのGOP分のビデオデータとそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを1つの単位とし、その中で1つのGOPが完結します。ストリーム形式がMPEG1の場合は表示されません。

インターバル

IもしくはPピクチャが現れる周期を1~3の範囲で設定します。I フレーム選択時にはインターバルは1に固定されます。

クローズド GOP

GOP内の画像が他のGOPから独立して再生可能なことを示すClosed GOPフラグを設定します。

[オーディオ]タブをクリックし、オーディオデータに関する設定を行います。



変換するMPEGストリーム形式により表示ウィンドウは異なります。

サンプリングレート

オーディオ信号のサンプリングレートが表示されます。

形式

オーディオデータの形式を設定します。

ビットレート

オーディオデータのビットレートを設定します。ビットレートを高くすると音質は良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。

チャンネル

ステレオ

左右の位相が比較的似ている場合に選択します。

ジヨイント

左右の位相がほとんど同じ場合に選択します。

デュアル

左右の位相が大きく異なる場合に選択します。

MONO

モノラルにする場合に選択します。

エンファシス

エンファシスエンコードを行う場合に設定します。再生に使用するシステムとの互換性のための設定です。通常はチェックをつける必要はありません。

プロテクション

CRCエラーの検出が行えるファイルを作成する場合にチェックをつけます。ビデオ CD を選択している場合は、チェックをつけないでください。

オリジナル

オリジナルビットをつけたオーディオファイルを作成する場合にチェックをつけます。このデータがコピーではなくオリジナルデータであることを示します。

コピーライト

著作権保護情報をつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。オリジナルで創作したデータ以外にはチェックをつけないでください。

[フィルタ]タブをクリックし、プリフィルタに関する設定を行います。



垂直フィルタ

動きが少ない画像に対して、ちらつきを抑えるフィルタです。フィルタを有効にする場合は、チェックをつけ、スライダーでフィルタのかかり具合を調整してください。動きが激しい画像に効果を大きくかけると、動きがガクガクする場合があります。

マトリクスフィルタ

動きが激しい画像に対して、ざわつきを抑えるためのフィルタです。フィルタを有効にする場合は、チェックをつけフィールドに数値(-255から255)を直接入力し、設定してください。9つのフィールドが中心(真ん中のフィールドに対応)を基準ピクセルとした画像9ピクセル分の設定に該当します。たとえばデフォルトの設定の場合、中心にあるフィールドの数値を現在の数値より小さくすると画像のぼけ具合が小さくなります。9つのフィールドの数値をすべて足し算して0になった場合は、フィルタ処理が行われない画像が表示されます。

[出力ファイル]タブをクリックし、データの出力に関する設定を行います。



変換するMPEGストリーム形式により設定できる項目は異なります。テキストフィールドに現存するファイル名と同名のファイル名を入力した場合は、無条件に上書きされますのでご注意ください。デフォルトのファイル名はプロジェクト名+拡張子となっています。

ビデオ

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリーストリームもしくはMPEG2 エレメンタリーストリームの場合は、変換後に作成されるビデオファイル名(パス名も含む)をテキストフィールドにキー入力します。フォルダを参照する場合は、[...]をクリックします。

オーディオ

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリーストリームもしくはMPEG2 エレメンタリーストリームの場合は、変換後に作成されるオーディオファイル名(パス名も含む)をテキストフィールドにキー入力します。フォルダを参照する場合は、[...]をクリックします。

MPEG

変換するストリーム形式がMPEG1 システムストリーム、MPEG2 プログラムストリームもしくはビデオCDの場合は、変換後に作成されるファイル名(パス名も含む)をテキストフィールドにキー入力します。フォルダを参照する場合は、[...]をクリックします。

8

設定した内容を保存する場合は、[プリセット]メニューの[名前を付けて保存] (新規に保存) もしくは [初期値として保存] (デフォルトの設定として保存) を選択します。



9

[変換開始]をクリックします。

→ ファイルの変換を開始します。

→ ファイルの変換を中止する場合は、[中止]をクリックします。



10

[変換開始]のウィンドウが消えると、ファイルの変換は完了です。



MPEG1/MPEG2のエレメンタリーストリームでオーディオファイルを作成した場合、ビデオとオーディオはそれぞれ別のファイルに出力されます。MPEG1 システムストリーム、MPEG2 プログラムストリームやビデオ CD の場合、ビデオとオーディオを1つのMPEGファイルにまとめて格納します。

StormEditでの変換-タイムラインの一部-

タイムラインの一部を選択し、変換結果の評価用にトライアルファイル変換ができます。マークのIN点とOUT点の間は最低でも1秒以上あけて設定してください。



変換後のMPEG形式ファイルは、StormVideoおよびStormEditではプレビューできません。

1

[編集]メニューの[マーク]から選択するか、ファイルコントローラにあるマークの設定アイコンをクリックします。

→ マークのIN点およびOUT点を設定し、トライアルプレビューを行う範囲を設定してください。



マーク OUT の設定
マーク IN の設定

2

マーク範囲が設定されると、図の精円で囲まれた部分の色が変わります。



マーク OUT ヘジャンプ
マーク IN ヘジャンプ
マーク範囲の再生

3

[ファイル]メニューから[マーク範囲を保存]を選択し、[マーク範囲をMPEGファイルに変換]を選択します。



MPEGに関する設定ウィンドウが表示されます。

→ 78 ページ『StormEditでの変換-タイムライン全体-』の手順2. 以降を参照して設定を行ってください。



マークIN/マークOUTのショートカットキー

キー操作だけで機能選択できるショートカットキーを活用することで、操作をスピーディに行うことができます。

- **Shift** + **↑** マークIN
- **Shift** + **↓** マークOUT
- **Ctrl** + **↑** マークINへJump
- **Ctrl** + **↓** マークOUTへJump

Adobe Premiere 6.0での変換

Adobe Premiere 6.0で編集したデータをMPEGファイル形式に変換します。ただし、変換されたファイルはPremiere 6.0では再生できません。



Premiereプラグインを使用する場合は、必ずCanopus MPEG Hardware Exporterのインストールを行う前にPremiere 6.0のインストールを行ってください。MPEGパラメータの設定項目については、78ページ『StormEditでの変換-タイムライン全体-』の項をご参照ください。若干画面は異なりますが設定可能な項目は同じです。

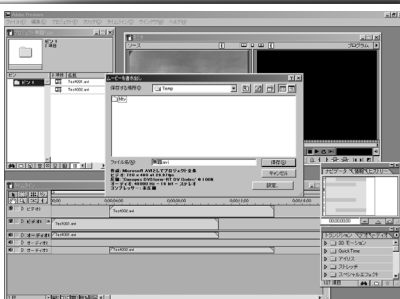
1

編集後、出力範囲を設定し、[ファイル]メニューから[タイムラインを書き出し]→[ムービー]（もしくはオーディオ）と進んで、[ムービーを書き出し]ウィンドウを表示します。



2

[設定...]をクリックし、[ムービー書き出し設定]ウィンドウを表示します。



3

[全般設定]→[ファイルの種類]が[Canopus MPEG Encoder]になっていることを確認し、[OK]をクリックします。



- [終了時に開く]にはチェックをつけないでください。
- 16:9 (NTSC)形式の出力を行う場合は、[ビデオ設定]で圧縮形式の設定を行ってください。

4

手順2.のウィンドウに戻りますので、保存先を選択してファイル名のテキストフィールドにファイル名を入力し、[保存]をクリックします。

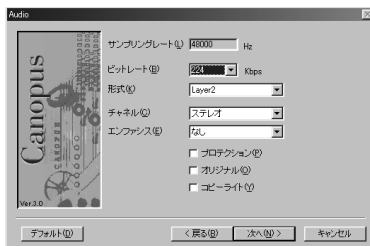
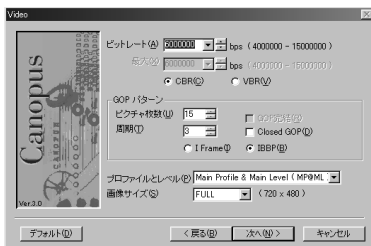


5

パラメータを設定します。

→ [次へ]をクリックし、各ウィンドウのパラメータ設定を行います。

→ 設定完了後、[完了]をクリックします。

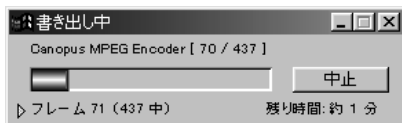


Premiereの[出力設定]ウィンドウの[オーディオ設定]→[サンプリングレート]で設定したサンプリングレートが有効になるため、このパラメータ設定ウィンドウでは、サンプリングレートの変更を行えませぬ。サンプリングレートは、あらかじめ設定しておいてください。

6

変換を開始します。

→ 左下にある[▶]をクリックすると、詳細ウィンドウを表示します。[▼]をクリックすると元のウィンドウに戻ります。



変換完了のウィンドウが表示されます。

- 変換された結果をプレビューする場合は、[はい]をクリックしてください。
- 変換された結果をプレビューしない場合は、[いいえ]をクリックしてください。



変換後のMPEG形式ファイルは、Premiereではプレビューできません。

■ Premiere 6.0でのMPEGファイル出力時のご注意について

[ファイル]メニューから[タイムラインを書き出し]→[ムービー]と進んで、[ムービーを書き出し]画面を表示します。[設定]をクリックし、[ムービー書き出し設定]ウィンドウを表示して[キーフレームとレンダリング]を選択します。この設定ウィンドウで、出力元の映像フォーマットに応じたフィールド(フレーム単位で見ただけの場合の一番上のライン)設定を正しく行ってください。この設定が正しく行なわれていない場合、出力したMPEG2ファイルを再生する際(特にTVでご覧いただく場合に顕著に現われます)にフィールドの表示順序が入れ替わり、映像の横方向に動く部分が、ごこちない動きとなります。

- 一番上のラインがODDフィールドである場合は、[奇数フィールドから]を指定してください。
- 一番上のラインがEVENフィールドである場合は、[偶数フィールドから]を指定してください。

出力元の映像が Canopus DV形式である場合には、一番上のラインはEVENフィールドとなりますので、[偶数フィールドから]を指定してください。

出力元の映像がフィールド構造を持たない場合(縦方向の解像度が240以下のAVIファイルやMPEG1ファイルの場合など)は、[奇数フィールドから]を指定してください。



[キーフレームとレンダリング]の設定ウィンドウは、プロジェクト設定の中にもあります。プロジェクト設定側の設定を変更しても、上記の動作に効果は反映されませんのでご注意ください。[ファイル]メニュー→[タイムラインを書き出し]→[ムービー]を選択し、[ムービーを書き出し]ウィンドウにある[設定]をクリックした時に表示されるウィンドウで設定を必ず行ってください。

Premiereプラグインを使用してVideo CD形式のファイルを出力する場合は、[プロジェクト]メニューから[プロジェクト設定]→[オーディオ]と進んで、[プロジェクト設定]ウィンドウを表示し、[レート]を[44100Hz]に設定する必要があります。サンプリングレートが、[48000Hz]や[32000Hz]に設定されている場合は、Video CD形式の選択はできませんのでご注意ください。

MPEG2 ファイル出力のビットレートについて

■ 参考事例

MPEG2 ファイル作成の事例を以下に紹介します。この設定を参考にして、出力する映像に適した設定を見つけだしてください。

動きの激しい映像: 運動会の競争シーン

家庭用の場合、MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[VBR]に、最大ビットレートを[8000000]bps、平均ビットレートを[6000000]bpsに設定します。

ブライダル

家庭用の場合、MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[VBR]に、最大ビットレートを[6000000]bps、平均ビットレートを[4000000]bpsに設定します。
式場側等からの配布目的の場合、MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[CBR]に、ビットレートを[8000000]bpsに設定します。

字幕が入っている映像

小さな字幕がビデオ素材に含まれている場合はMPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[CBR]に、ビットレートを[6000000]bps(8000000bpsを推奨)に設定します。

空/海

もやもやとした感じの空/海(=曇天時の海/空)がビデオ素材に含まれている場合はMPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[CBR]に、ビットレートを[6000000]bps(8000000bpsを推奨)に設定します。

ゆっくりした映像/家庭向け映像

MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[VBR]に、最大ビットレートを[6000000]bps、平均ビットレートを[4000000]bpsに設定します。

第 5 章

MTV ファイルユーティリティ

この章では、MTV ファイルユーティリティについて説明します。

1 MTV ファイルユーティリティについて 92 ページ

1. MTV ファイルユーティリティーについて

DVD-Movie Albumインポート出力情報ファイル(MTVファイル)を付加したMPEGファイルは、後からDVD-Movie Albumへの高速インポートを行うことができます。MTVファイルとMPEGファイルは対になっていますので、対となるMPEGファイルを編集したり、リネームするとこの機能を使用できなくなります。インポートできるファイルは4GB以内の容量のものに限りますので、本ユーティリティーを使用して、簡易的に調整することができます。また、インポート情報を付加したままファイル名のリネームを行う場合も本ユーティリティーを使用します。



DVD-Movie Album for Canopusがインストールされていない場合は、機能しません。

起動方法

1

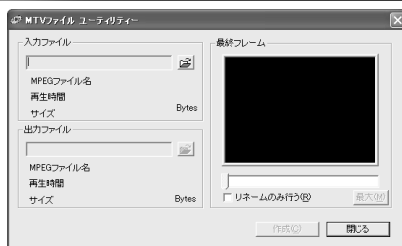
[エクスプローラ]を起動します。

2

[Program File]フォルダ→[Canopus]フォルダ→[MTV Series]フォルダ内のMTV Cut. exeをクリックします。

3

MTVファイルユーティリティーが起動します。



詳しい使用方法は、DVD-Movie Album for Canopusのマニュアルをご覧ください。

第 6 章

APPENDIX

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1. 詳細設定について | 94 ページ |
| 2. 各設定項目について | 97 ページ |
| 3. MTV2200 SX Seriesの高画質のこだわり | 108 ページ |
| 4. ハードウェア仕様 | 110 ページ |

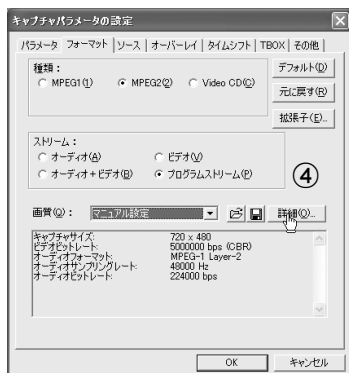
1. 詳細設定について

MPEGパラメータの設定

MPEGパラメータの設定は、「キャプチャパラメータの設定」ウィンドウのフォーマットタブ、および「マニュアル設定」ウィンドウのビデオタブ、オーディオタブで行います。ここでは、フォーマットタブ、ビデオタブ、オーディオタブの各項目の詳細内容について、説明します。

フォーマットタブ

録画時のデータファイル形式を設定するタブです。設定項目は次のとおりです。



① 種類

録画データのデータファイル形式として使用するものを選択します。

② ストリーム

ストリームを選択します。

③ 画質

録画データの画質を選択します。高画質、普通、1/2 解像度、1/4 解像度、マニュアル設定から選択できます。マニュアル設定を選択すると④の[詳細]ボタンが選択可能になります。

④ 詳細

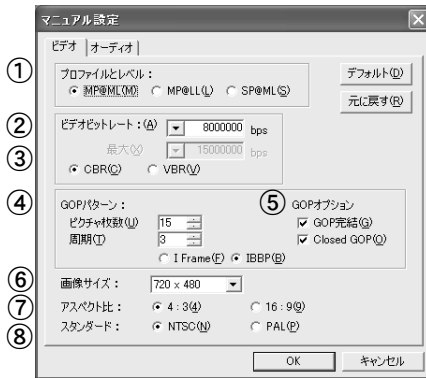
クリックすると、「マニュアル設定」ウィンドウが表示されます。「マニュアル設定」ウィンドウのビデオタブとオーディオタブで、データファイルの詳細内容について設定できます。



フォーマットタブ設定の詳細内容については、「各設定項目について」97 ページをご覧ください。

ビデオタブ

録画時のデータ保存内容の詳細設定をするタブです。ビデオタブは、フォーマットタブの画質欄で「マニュアル設定」を選択し、[詳細] ボタンを押すと表示される[マニュアル設定]画面で、ビデオタブをクリックすると表示されます。設定項目は次のとおりです。



① プロファイルとレベル

録画データのプロファイル、レベルを選択します。

② ビデオビットレート

ビデオデータのビット量を指定します。

③ CBR, VBR

ビデオデータ量をほぼ一定に保つ場合はCBRを、ビデオデータ量の変動を許容する場合はVBRを選択します。

④ GOPパターン

一般的なMPEGの機能で録画データを記録する場合はIBBPを、全ての録画データのフレームを1ピクチャとして記録する場合はI Frameを選択します。通常は、IBBPを選択してください。

⑤ GOPオプション

GOP完結で録画データを記録する場合は、[GOP オプション]にチェックしてください。Closed GOPで録画データを記録する場合は、[Closed GOP]チェックしてください。

⑥ 画像サイズ

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。ピクセル数が大きいほど解像度が高くなりますが、データサイズも大きくなります。

⑦ アスペクト比

ウィンドウのアスペクト(縦と横の比率)を選択します。録画データのアスペクト比に合わせてください。

⑧ スタンダード

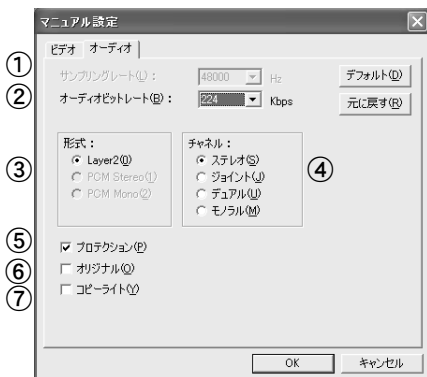
テレビジョン方式の設定です。この項では、[NTSC]のみ選択できます。



ビデオタブ設定の詳細内容については、「各設定項目について」98ページをご覧ください。

オーディオタブ

録画時の音声の詳細設定をするタブです。設定項目は次のとおりです。



- ① サンプルレート
オーディオ信号のサンプリングレート(標準化周波数)を設定します。
- ② オーディオビットレート
録画データの音声の圧縮サイズを設定します。
- ③ 形式
録画データの音声の圧縮形式を設定します。
- ④ チャンネル
録画データのチャンネル形式を設定します。
- ⑤ プロテクション
チェックすると、録画データにエラーチェックコードが付加されます。
- ⑥ オリジナル
チェックすると、この録画データがオリジナルデータであることが、録画データのヘッダー部に記録されます。
- ⑦ コピーライト
チェックすると、この録画データに著作権があることを、録画データのヘッダー部に記録します。

Reference

オーディオタブ設定の詳細内容については、「各設定項目について」の【オーディオタブ】105ページをご覧ください。

2. 各設定項目について

MPEG1、MPEG2、ストリームについて

MTV2200 SX Seriesは、ビデオ信号とオーディオ信号の両方をエンコードする機能があります。ビデオ信号のエンコードは、MPEG1 (ISO/IEC 11172-2) または MPEG2 (ISO/IEC 13818-2) のいずれかが選択できます。

オーディオ信号のエンコードはMPEG オーディオ (ISO/IEC 11172-3) 規格に基づいています。オーディオは圧縮せずにPCMデータで記録することもできます。

ビデオやオーディオのそれぞれをエンコードしたデータをエレメンタリストリームと呼びます。

MTV2200 SX Seriesは、ビデオまたはオーディオのいずれか、または両方をエンコードし、エレメンタリストリームを記録したファイルを作成することができます。

ビデオ信号とオーディオ信号を同時に記録する場合は、それらが1つのデータにまとまっていることが理想です。そのためにMTV2200 SX Seriesは、ビデオのエレメンタリストリームとオーディオのエレメンタリストリームとを多重化して、1つのストリームにまとめることができます。多重化の方式は、ビデオがMPEG1の場合にはシステムストリーム (ISO/IEC 11172-1) を、ビデオがMPEG 2の場合にはプログラムストリーム (ISO/IEC 13818-3) を作成できます。

Video CDの作成について

Video CDは、ビデオとオーディオの両方を記録でき、システムストリームの形式で記録されています (Video CDにはMPEG1ビデオが使用されています)。従って、MTV2200 SX SeriesでエンコードしたデータをVideo CDを作成するための映像素材として使用する場合は、システムストリームとしてエンコードします。ただし、Video CDの規格は、一般的なシステムストリームに比べてよりせまい範囲に条件を限定しているので、MTV2200 SX Seriesでは「Video CD」という選択ボタンを別に設けて、その条件に合ったシステムストリームが出力できるようにしています。こうして出力したファイルを、市販のVideo CD作成ソフトウェアで読み込んでVideo CDを作成することができます。

MTV2200 SX SeriesでVideo CDを選択した場合、次の形式のファイルが作成されます。

項目	値
MPEGの種類	MPEG1
ビデオ入力サイズ	NTSC 352×240、PAL 352×288
ビデオビットレート	1150000bps
CBR/VBR	CBR
オーディオビットレート	224000bps
サンプリングレート	44100Hz
オーディオレイヤ	レイヤ2
多重化	システムストリーム
バックサイズ	2324バイト
SCRの初期化	0

Video CDを作成するときは、上記のデータ形式を読み込むことができるVideo CD作成ソフトウェアをご使用ください。

DVD-Videoの作成について

DVD-Videoは、プログラムストリームの形式で記録されています(DVD-VideoにはMPEG2ビデオが使用されています)。DVDのオーサリングを行うソフトウェアがどのような形式のMPEGデータを必要とするかは、オーサリングソフトウェアによって異なります。エレメンタリストリームを読みこんで、オーサリングソフトウェアの内部でプログラムストリームに多重化する場合が一般的です。その場合、オーディオデータは、MPEGオーディオのエレメンタリストリーム、または非圧縮のPCMデータとして、ビデオとは別のファイルとして読み込まれます。

MTV2200 SX Seriesは、エンコードしたデータをDVD-Videoを作成するための映像素材として使用できるように、ビデオとオーディオのエレメンタリストリームやオーディオのPCM形式での記録をサポートしています。

■ ビデオタブ

「マニュアル設定」画面のビデオタブの各項目の詳細内容について説明します。



ビデオタブは、「キャプチャパラメータの設定」ウィンドウのフォーマットタブの画質欄で[マニュアル設定]を選択した場合にのみ設定できます。

プロファイルとレベル

プロファイルとレベル：

MP@ML(M) MP@LL(L) SP@ML(S)

MPEG2の規格はパラメータの許容範囲が非常に広いので、個々の製品がサポートする範囲がまちまちになってしまうと混乱が生じます。そのために、いくつかの段階に分けて目安を設けたものが、プロファイルとレベルです。

MTV2200 SX Seriesで使用できるのはMP@ML、MP@LL、SP@MLの3種類で、最も段階が高いのがMP@MLです。スタンダードTV(HDTVではない通常のTVという意味)向けでは、MP@MLが標準です。現在市販されているMPEG2デコーダは、ほとんどがMP@MLに対応していますので、特別な理由がない限り、MPEG2ではMP@MLを使用してください。

MPEG1の場合は、プロファイルやレベルの規定がないため、選択できません。

ビデオビットレート

ビデオビットレート : (A) 8000000 bps
最大 (X) 15000000 bps
 CBR (C) VBR (V)

ビデオデータのビット量を指定します。ビットレートを上げると画質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。数値は、1秒間の録画に必要なデータサイズ(ビット単位)です。バイト数に換算するには、8で割ってください。例えば8,000,000bps(=8Mbps)と指定すると、1秒あたり8Mビット、すなわち1Mバイトですから、1分間の録画には1Mバイト×60秒=60Mバイト以上の空きディスク容量が必要になります(オーディオも同時に記録する場合は、そのデータ量も加算する必要があります)。

データ量と画質のバランスから、適切であろうと考えられるおおよその目安は、以下の通りです。

● 画像サイズが720×480もしくは704×480の場合

6～12Mbpsが適切です。4Mbpsでは少し画質が悪いと感じられ、8Mbps以上にしても、画質にそれほど大きな変化はありません。15MbpsがMPEG2(MP@ML)の規格上の上限値です。

● サイズが352×480の場合

3～4Mbpsが適切です。
さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、720×480もしくは704×480を使用してください。

● 画像サイズが352×240の場合

MPEG1の場合は、1.5～1.8Mbpsが適切です。1.8MbpsがMPEG1の規格上の上限値です。VideoCDの規格では1.15Mbpsが規格上の上限値となっていますので、VideoCDを選択した場合はこの値に固定になります。

MPEG2をこの画像サイズで使用する場合は、2～3Mbpsくらいが適切です。さらにビットレートを上げる(画質を上げたい)場合は、352×480を使用してください。

The screenshot shows a control panel for video encoding. It features two dropdown menus: the first is labeled 'ビデオビットレート:(A)' and is set to '8000000 bps'; the second is labeled '最大(∞)' and is set to '15000000 bps'. Below these are two radio buttons: 'CBR(C)' is unselected, and 'VBR(V)' is selected.

CBRはビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます(CBR:Constant Bit Rate)。

VBRはビデオのデータ量が変動します(VBR:Variable Bit Rate)。

MPEGは、急にシーンが変わったり、細かいパターンが多く含まれる映像などは圧縮しにくい、という性質があります。CBRでは、そのような場面でも一定のデータ量まで圧縮しようとするので、そのような場面の画質が他の場面に比べて低下します。VBRはそれを緩和するため、そのような場面では圧縮結果のデータ量が平均より多くなるようにし、その代わりに他の場面でのデータ量を平均より少なくすることで、トータルのデータ量を増やさずに、各場面の画質をできるだけ均一に保つように考えられた方式です。

そのためにVBRの場合は、ビットレート(目標とする平均のビットレート)と、最大ビットレート(データ量が多くなった部分でも、これを越えない上限値)の2つを設定できるようになっています。

 GOPパターン (IBBP、I Frame)

GOPパターン :		GOPオプション	
ピクチャ枚数(U)	15	<input type="checkbox"/> GOP完結(G)	
周期(T)	3	<input type="checkbox"/> Closed GOP(Q)	
<input type="radio"/> I Frame(F) <input checked="" type="radio"/> IBBP(B)			

ビデオ映像は、多くの場合、時間の経過と共に画像が少しずつ変化していきます。MPEGではそのことを利用し、前後の画像内によく似た部分があれば、その情報を使用することで、全てのデータをそのまま記録しないで済むように考えられています。従って、それまでの画像がなければ、次の画像を構成することができません。

ただ、何フレームかに1枚の割合で、前後の画像の情報がなくとも、独立して画像が再現できる画像が含まれています。これをIピクチャと呼びます。

これに対し、時間的に前の画像の情報を利用して少ないデータから再現できるように記録されている画像をPピクチャと呼びます。

また、時間的に前の画像と、時間的に後の画像の両方の情報を利用して、さらに少ないデータから再現できるように記録された画像もあり、これをBピクチャと呼びます。

IBBPを選択すると、上記のしくみを利用して、データ量を少なくしつつ、画質を保つようにします。通常MPEGは、この方式で記録されています。

通常は、IBBPを選択してください。

ただし、IBBPは、前後の画像の情報を使用するため、圧縮データの途中で切り離して他の部分のデータに接続することができないので、記録した画像の編集には向きません。

I frameは、全てのフレームをIピクチャとして記録します(I frame only)ので、編集が容易にできます。I frame onlyのMPEGファイルを編集できるソフトウェアをご使用になる場合は、I frameを選択してください。

ただし、I frameは、同程度の画質を維持するためにはIBBPに比べてデータ量を大きくすることが必要になります。

最大ビットレートはMP@MLの規定上、15Mbpsが上限ですので、データ量を大きくして高い画質を得ようとしても、できないことがあります。



Light

GOPオプション

GOPパターン :		GOPオプション	
ピクチャ枚数(U)	15	<input checked="" type="checkbox"/> GOP完結(G)	
周期(T)	3	<input checked="" type="checkbox"/> Closed GOP(Q)	
<input type="radio"/> I Frame(F) <input checked="" type="radio"/> IBBP(B)			

GOP完結

これはMPEGの規格として定められた用語ではありませんが、DVDのVOBUと呼ばれる構造に似た考え方を当社で取り入れたものです。

プログラムストリームでは、ビデオやオーディオのデータはパケット化されています。それをパックと呼びます(一般的には複数のパケットの集まりにヘッダを付けたものがパックですが、MTV2200 SX Seriesの出力データでは、1パックには1パケットだけが入ります)。MTV2200 SX Seriesの場合、1パックの長さは、Video CDを指定した場合を除いて2048byte固定です。一方、ビデオのデータ量はフレームごとに変動します。従って、無作為にビデオデータをパケットに分割すると、GOPの境界と、パックの境界が必ずしも整合するわけではありません。そこで、GOPの境界と、パックの境界を意識的に整合させることにより、データの処理を行いやすくする必要があります。それが、GOP完結モードです。ただし、効率の点では非完結モードの方が若干効率が悪くなります。通常の使用の場合には、GOP完結のチェックマークは付けずに使用してください。エンコードしたMPEGファイルを使用し、何らかの処理を行う場合には、完結モードにチェックを付けて使用すると処理を行い易くなります。

この選択によって、プログラムストリームのデータの構造が次のように変わります。

(1) GOP完結モード(チェックマーク付き)

1つのGOP分のビデオデータおよびそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを、1完結単位と呼ぶ。

1完結単位の中では、1つのGOPが完結しており、他のGOPのデータは入らない。パックの途中でその単位に入るべきデータが完了した場合は、パックの残りの部分にはパディングデータ(データサイズを調整する目的で入れられる情報を持たないデータ)が入れられる。

各完結単位の最初のパックには、システムヘッダが付けられる。

(2) 非完結モード(チェックマークなし)

完結単位のような区切りは意識せず、パックの途中でGOPが終了した場合でも、次のGOPのデータがそのパックの残りの部分に続けて入る。

システムヘッダは、全体のなかで最初のパックにのみ付けられる。



Closed GOP

Iピクチャ以外の各ピクチャは、時間的に前後のピクチャの内容も利用して圧縮を行います(101ページGOPパターンの項参照)。従って、編集のために、圧縮データを途中で切り離して他の部分のデータに接続することができません。この事は、GOPの境界部分についても同じです。GOPの先頭はIピクチャですが、その後のPピクチャとの間にあるBピクチャは、通常はそのGOPの一つ前の最終のPピクチャを参照します。

Closed GOPにチェックすると、そのような場合、Bピクチャは前方に対する参照を行わないようになります。すなわち、GOP内で情報が完結することになり、GOPの境界でデータを切り離しても、原理上、映像の再現は可能になります。ただし、圧縮効率は低下します。通常は、チェックマークを外してご使用してください。

Closed GOP構造のMPEGファイルをGOP単位で編集ができるようなソフトウェアをご使用になる場合に使用してください。

画像サイズ

画像サイズ：

ビデオをエンコードする際の1画面を構成するピクセル数です。大きいほど解像度が高くなりますが、データ量は大きくなります。

720×480は、フルサイズです。

704×480は、民生用プレイヤーで使用されているサイズです。

352×480は、一般にHalf-D1と呼ばれているピクセルサイズです。

352×240は、一般にSIFと呼ばれているピクセルサイズです。MPEG1を選択した場合には、このサイズ以外は選択できません。

スタンダード (NTSC、PAL)

スタンダード： NTSC(N) PAL(P)

NTSC : 日本、北米などで使用されているテレビジョン方式です。

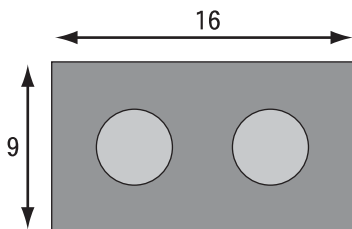
PAL : ヨーロッパ・中国などで使用されているテレビジョン方式です。

※ MTV2200 SX Seriesの動作保証は、NTSCのみです。

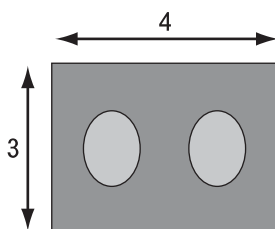
アスペクト比(16:9、4:3)

アスペクト比： 4:3(4) 16:9(9)

現在ビデオ画像のアスペクト比には、4:3または16:9が使用されています。
 どちらのビデオを入力するかを設定してください。
 ここでの16:9のビデオとは、TVに表示した時に、下図のように表示されるビデオ信号のことを指します(2つの円は、真円を撮影したものを表しています)。

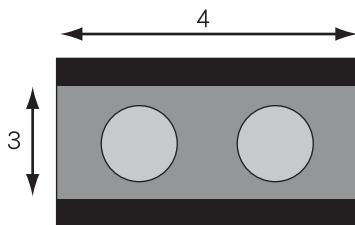


16:9テレビに表示したとき



4:3テレビに表示したとき

4:3のTVに次のように表示されるビデオは、16:9の映像を4:3TV用に変換したもので、このようなビデオはビデオ全体としてはあくまで4:3です。



16:9の映像の上下に黒い帯状の部分を入れて、4:3テレビ用にしたもの

アスペクト比の設定にかかわらず、エンコードされる1ラインあたりのピクセル数は変わりません。あくまで720ドットです。エンコード時の動作の違いは、作られるMPEGストリーム内のヘッダーに、16:9の情報が入るか、4:3の情報が入るかだけです。

■ オーディオタブ

「マニュアル設定」画面のオーディオタブの各項目の詳細内容について説明します。



オーディオタブは、「キャプチャパラメータの設定」画面のフォーマットタブの画質欄でマニュアル設定を選択した場合にのみ設定できます。

サンプリングレート

サンプリングレート(L) : 48000 Hz
オーディオビットレート(B) : 224 Kbps

オーディオ信号の標準化周波数を指定します。32kHz (32000Hz)、44.1kHz (44100Hz)、48kHz (48000Hz)から選択できます。44.1kHzはオーディオCDやVideo CDで採用されている値、48kHzはDVDで採用されている値です。

ビデオがMPEG1の場合には44.1kHz、ビデオがMPEG2の場合には48kHzのオーディオと組み合わせるのが適切です。

32kHzは、特にデータ量を少なくしたい場合を選択してください。

オーディオビットレート

サンプリングレート(L) : 48000 Hz
オーディオビットレート(B) : 224 Kbps

オーディオをMPEGオーディオ規格で圧縮する場合(次項参照)の、圧縮後のデータ量を1秒あたりのビット量で指定します。

音質とデータ量の兼ね合いから、通常192、224、256のいずれかを選択してください。

形式

形式：

- Layer2(Q)
- PCM Stereo(1)
- PCM Mono(2)

Layer 2

MPEG オーディオのレイヤ 2 規格に基づいて、オーディオ信号を圧縮します。チャンネル構成については、次項の「チャンネル」で指定します。

PCM Stereo

非圧縮のリニアPCMデータを2チャンネル記録します。ビデオをエレメンタリストリームとして記録する場合にのみ選択できます。ビデオデータとは別にWAVEファイルを作成します。

PCM Mono

非圧縮のリニアPCMデータを1チャンネル記録します。ビデオをエレメンタリストリームとして記録する場合にのみ選択できます。ビデオデータとは別にWAVEファイルを作成します。Lチャンネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

チャンネル

チャンネル：

- ステレオ(S)
- ジョイント(J)
- デュアル(L)
- モノラル(M)

ステレオ

LチャンネルとRチャンネルの信号にある程度の相関がある場合に、効率のよいオーディオエンコードを行います。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合にご使用ください。

通常の音楽などの信号は、LチャンネルとRチャンネルの信号が、かなり似ています。その場合には、各チャンネルを独立してエンコードするのではなく、似通った部分があるという性質を活用してエンコードした方が、より高品質の圧縮が可能です。この設定では、そのような圧縮を行います。

ジョイントステレオ

LチャンネルとRチャンネルの信号の相関がより強い場合に使用します。

デュアル

LチャンネルとRチャンネルの信号に相関がほとんどない場合に使用します。各チャンネルに全く別の音を記録する場合などにご使用ください。

モノラル

1チャンネルだけのオーディオ信号を記録します。Lチャンネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

プロテクション

- プロテクション(P)
- オリジナル(Q)
- コピーライト(Y)

チェックマークを付けると、オーディオデータにエラーチェックコードが付加されます。

オリジナル、コピーライト

- プロテクション(P)
- オリジナル(Q)
- コピーライト(Y)

チェックマークを付けると、作成されるオーディオデータのヘッダー部にその情報が、記録されます。

オリジナル

このデータがコピーされたものでなく、オリジナルデータであることを示します。

コピーライト

このデータに、著作権があることを示します。

これらの設定は、データ内に上記の情報が記録されるだけで、エンコード動作に影響は与えません。創作されたオーディオ信号をエンコードする場合以外は、オリジナルにチェックマークを付けしないでください。



Light

3. MTV2200 SX Seriesの高画質へのこだわり

Triple 3D Video processor 搭載

■ 3つの3D処理で更なる高画質の世界へ

ビデオの世界における第3の軸、それは時間軸です。ビデオ画像は高さと幅の情報をもった2次元の静止画像が時間とともに変化します。

今まで多くの画像処理においては左右方向の1次元や、上下左右の情報を使用した2次元で行われてきましたがMTV2200 SX Seriesでは、第3の軸である時間方向の変化をデジタル処理することによって、更なる高画質を提供します。

デジタル3次元YC分離

TVチューナーから出力される信号はコンポジット信号と言って、ひとつの信号に明るさの信号(Y)と色の信号(C)が混合された状態になっています。

コンポジット信号をパソコンで扱うRGBのデータに変換するためには、まずこのYとCのデータを分離する必要があります。この分離方法には3つの方式があります。

1次元YC分離

ドットの左右方向(=周波数特性)の関連を利用してYCを分離する方法です。

アナログ回路での再現が簡単のため旧式のTVで多く使用されていました。

(最近ではデジタル化したものもあります)

若干解像度が低いことがデメリットとなりますが、色ノイズが出ることはありません。

2次元YC分離

ドットの上下の関連を利用してYCを分離する方法です。一般的にはくし型フィルタと呼ばれています。1ラインのメモリが必要になります。かつてTVセットではガラス遅延素子を使用してアナログ的に処理を行ってきましたが、現在はデジタルの1ラインメモリが使用されます。ドットの上下の関連性が低い場合(黒バックに白の斜め線等)に色ノイズが発生しますが、解像度を高くできるため、最近では多く採用されている方式です。

3次元YC分離

同じ位置に表示されているドットの時間関係からYCを分離する方法で、現在考えられる手法ではもっとも高画質の処理です。時間軸の相関関係の強い静止部分は時間軸で、時間軸の相関関係の低い動画部分は上下の関係(2次元)を利用して処理を行います。デジタルのフレームバッファと動きの検出機構が必須となります。

※MTV2200 SX Seriesでは、2次元と3次元のYC分離をご使用いただけます。

デジタル3次元デジタルノイズリダクション

従来のノイズリダクションは1次元または2次元の方向で、画像全体の周波数特性を落とす(ぼやっとさせる)方向でノイズの除去を行っていたため、ノイズのない部分にも影響が出てしまうという問題がありました。MTV2200 SX Seriesで採用した3Dデジタルノイズリダクションでは、ノイズの特性(時間軸の関連性が低い)からノイズを検出してノイズ除去を行うため、画像への影響は最小限に抑えられています。またMP E G圧縮には大敵であるノイズを低減することにより、圧縮率の向上にも貢献します。

※構造上すべてのノイズに対応できるわけではありません。

デジタル3Dフレームシンクロナイザ

MPEG エンコードチップは、その特性上、ノイズなどによって乱れた同期信号が入力されると、場合によっては継続した処理ができなくなってしまうという問題があります。

これを解決するために1画面分のメモリをバッファとして使用することで、入力信号の同期信号が乱れても、MPEGエンコードチップには常に安定した同期信号を供給し、処理の中断の可能性を低く抑えています。

※外部信号への同期機能(外部同期入力)はありません。

※デジタル3Dフレームシンクロナイザは、常にONの状態になっています。

■ 更なる高画質デジタル処理

デジタルラインタイムベースコレクタ

横方向の揺らぎ(ジッター)の強い画像を検出し強力で補正。古いビデオライブラリのキャプチャーにも威力を発揮します。

※信号の品質によっては補正できない場合もあります。

※デジタルラインタイムベースコレクタは常にONの状態になっています。

デジタルAGC (Auto Gain Control)

設定が非常に難しかった入力ビデオレベルの調整をデジタルで完全自動化。

同期信号を基準にするために、画像内容の影響は全く受けません。

アナログのビデオ信号を余すところ無くデジタルに変換します。

※デジタルAGCは、常にONの状態になっています。

10Tapデジタルゴーストリデューサー

T V信号に含まれるゴースト検出信号の遅延と減衰を検出し10個の回路に設定をすることで、ゴーストを軽減し、見やすい画面を提供します。

※ゴースト除去用の信号が正常に受信できないような地域では効果が無い場合があります。

※10個以上のゴーストに関しては原理的に軽減できません。

※最初にゴースト軽減機能が働くまで1~2秒、収束までには1分程度かかります。



Light

4. ハードウェア仕様

MTV2200 SXハードウェア仕様

■ MTV2200 SXボード

ビデオ 入力部	ビデオ入力信号	N T S C
	ビデオ入力端子	7ピンミニD I Nコネクタ×1 (Sビデオケーブルを接続、または付属のピンジャック変換ケーブルによりコンポジットビデオケーブルを接続できます。)
	入力映像調整	Hue, Saturationを調整可能 ※エンコード結果には反映されません。
	オーバーレイ表示	TV受信映像、ビデオ入力映像、再生映像をPC画面にオーバーレイ表示可能 (ビデオ信号出力機能はありません) <small>ディスプレイハードウェアとディスプレイドライバが、DirectX 5以上のオーバーレイ機能をサポートしている必要があります。また、使用するマザーボードの種類や表示解像度、リフレッシュレートの設定などによっては使用できないこともあります。</small>
	オーバーレイ映像調整	Brightness, Contrast, Saturationを調整可能 ※エンコード結果には反映されません
オーディオ 入出力部	オーディオ入力	R C Aピンジャック (赤/白) 入力インピーダンス 22k Ω (typ) フルスケール入力レベル 2Vrms
	オーディオ出力	3.5 Φ ステレオミニジャックまたはサウンドカード内部接続用コネクタ(付属のオーディオケーブルを使用) ※両方同時に接続することはできません 適合負荷インピーダンス 10k Ω 以上 フルスケール出力レベル 2Vrms
	サンプリング周波数	32kHz, 44.1kHz, 48kHz
	データ幅	16 ビット



MPEG エンコー ド部	ビデオ圧縮	ISO/IEC 13818-2 (MPEG2) ISO/IEC 11172-2 (MPEG1)
	MPEG2時のプロ ファイルレベル	MP@ML, MP@LL, SP@ML
	ビデオ画素数	720x480(Standard), 352x480(Harf), 352x240(SIF)
	ビデオビット レート	MPEG2 Standard 4M ~ 15M ビット/秒 MPEG2 Half D1/SIF 2M ~ 8M ビット/秒 MPEG1 SIF 1M ~ 1.8M ビット/秒
	GOP構成	IBBP I frame only
	オーディオ 圧縮	ISO/IEC 11172-3 Layer 2 (ソフトウェアによるリアル タイム圧縮) 圧縮なし(リニアPCMによるWAVEファイル作成)
	オーディオ ビットレート	128k, 160k, 192k, 224k, 256k, 320k, 384k ビット/秒
	多重化	ISO/IEC 13818-1 MPEG2 プログラムストリーム (音声がりニアPCMの場合は多重化できません) ISO/IEC 11172-1 MPEG1 システムストリーム (音声がりニアPCMの場合は多重化できません) 多重化なし (ビデオ、オーディオの各ファイルを作成)
消費電流(最大)		+5V 1.4A +12V 150mA -12V 50mA
使用温度範囲		5~45°C
使用 資源	割り込み	IRQを1つ
	メモリ空間	512バイト分の領域
ボードサイズ		163mm(長さ)×64.5mm(高さ) (パネルやコネクタ部分等は含みません)



■MTV2200 SXテレビチューナーユニット

TV受信部		<p>NTSC（日本地域対応） 音声多重/ステレオ放送対応 TV音声の音質調整が可能。外部音声入力の音質調整はできません。 受信可能チャンネル VHF：1～12 UHF：13～62 CATV：C13～C63 ※専用の受信機が必要となるCATVやFM放送は受信できません。 ゴーストリデュース機能対応 電波受信感度のマニュアル調整機能搭載</p>
入力端子	前面	<p>S（ミニDIN4ピン）×1 S用ステレオオーディオ（RCA）×1系統 コンポジット（RCA）×1 コンポジット用ステレオオーディオ（RCA）×1系統</p>
	背面	<p>アンテナ入力 USBレセプタクル（シリーズB：USB Version1.1準拠）×1系統 ACアダプタ用端子</p>
出力端子	背面	<p>S（ミニDIN7ピン）×1 コンポジット（RCA）×1 ステレオミニ×1</p>
AVセレクト部	映像	<p>コンポジット出力へは、TVチューナーとコンポジット入力を切り替え S出力へは、S入力をスルー出力</p>
	音声	<p>ステレオミニジャックへ、S/コンポジット/TVを切り替え</p>
最大消費電流	USBから供給	+5V 100mA
	ACアダプタから供給	+5V 1.2A
外形サイズ（mm）		146(W)×41(H)×121(D)（突起部を含まず）
本体重量		720g

■ エラーコード一覧表

2	MVR_ERROR_SYSTEM_ERROR <hr/> システムに関するエラーが発生した（ファイルへのアクセス失敗時にも発生する可能性がある）。
26	MVR_ERROR_TIMEOUT <hr/> タイムアウトが発生した。映像ソースを確認してください。
44	MVR_ERROR_EVENT_DATA_OVERRUN <hr/> MPEGビデオ・データまたはオーディオPCMデータの、デバイスからの収集(吸い上げ)が間に合わない。 (原因) 1. PCの処理性能が低い。 2. 録画中に、他のアプリケーションを起動/動作させたため、データの吸い上げが一時的に間に合わなくなった。 3. 正しいビデオ信号が入力されていない。 ドライバ内部のマルチプレクサ・プログラムは、データ吸い上げのため一定個数のバッファを割り当て、そのバッファをMPEGビデオ・データまたはオーディオPCMデータの吸い上げに使い回します。入力されているビデオ信号の周期が乱れたり、フィールドが欠落したりすると、それに応じて、MPEGビデオ・エンコーダから出力されるデータの転送周期が不正確となり、ビデオ・データに対してマルチプレクサが割り当てているバッファが足りなくなったり、あるいは、逆に、オーディオ・データにバッファを割り当てられなくなったりします。 具体的には、下記のような状況で発生します。 (a) 劣化したビデオ・テープを入力ソースとして使用すると、ビデオ信号が正しい周期(NTSCならば、29.97)で入力されていない場合があります。 (b) ビデオ・テープに複数の映像ソースが重ね書きされていると、映像ソースの変わり目で、不正なビデオ信号が発生します。 (c) 入力映像が途中で途切れると、不正なビデオ信号が発生する場合があります。
49	MVR_ERROR_EVENT_UNRECOVERABLE_ERROR <hr/> 回復不可能なエラーが発生した。 システムを一度終了してから、再起動させてください。
51	MVR_ERROR_EVENT_VIDEO_ENCODER_VBV_UNDERFLOW <hr/> ビット・レート・コントロールに失敗した。 ビット・レートをあげるか、ビデオ入力フォーマットをSIFまたはHalf-D1に設定してください。
52	MVR_ERROR_EVENT_VIDEO_ENCODER_OVERRUN_STATE <hr/> データの処理が間に合わなかった等の原因で、ビデオ入力の数フレームがエンコードできなかった。 (原因) (a) 録画中に他のアプリを起動した。あるいは、他のアプリで重い処理を実行した。 (b) 他のI/O(特に、PCIバスを使用するI/O)に時間がかかっている。 (c) ドライバ関連のモジュールがスワップ・アウトされている。 (d) パソコンの処理性能が低い。
53	MVR_ERROR_EVENT_VIDEO_MACROVISION_ENABLE <hr/> マクロビジョン信号と判断したためキャプチャがキャンセルされた。



第
6
章

4
ハードウェア仕様